初案ノ確定

教師原案確定

# 日本刑法第一編

刑法編纂課

6465

殘人而多害人
殘人而多害人
殘人而多害人

# 日本帝國刑法草案

司法省

7 13
6465

昭和20年12月19日寄贈
鶴田乙丑氏

# 日本帝國刑法草案

ホワソナート氏草

## 第一編　総規則

### 第一章　一般法律ヲ適用スルヿ

第一條　法律ニテ罰スヘキ所為又ハ懈怠ヲ罪トス

罪ヲ三種ニ別チ別アリ之ヲ重罪軽罪違式罪トス

第二條　重罪トハ第十二条ニ記載スル刑ノ一ヲ用ヒ罰スベキモノヲ云フ

軽罪トハ第十三條ニ記載スル刑ノ一ヲ用ヒ罰スヘキモノヲ云フ

違式罪トハ第十四條ニ掲ル刑ノ一ヲ用ヒ罰スヘキモノヲ云フ

第三條　何ノ罪ト雖モ法律上正条アルニアラサレハ之ヲ罰ス可カラス

刑法ハ其頒布前ニ係ル犯罪ニ及ス可カラス

然レトモ新法ノ寛ナルモノハ直ニ之ヲ用ヒ可

第四條　外國人日本領地及ヒ其属地ニ於テ罪ヲ犯セハ日本ノ法律ニ依テ處ス

然レトモ裁判言渡ノ時ニ於テ犯人其同罪ノ為メ已ニ本國ニテ其法律ニ依テ處決セラ

レタルトキハ日本政府ニテ其現ニ外國ニテ
於テ経過シタル刑ノ期限ヲ計算ス
可シ

第五條　日本人外國ニ於テ重罪軽罪ヲ犯シ
左ノ六件ノ具備スルトキハ日本ノ法律ニ依テ
之ヲ推問處刑スヘシ
一　其罪犯罪國ノ法律ニ因テ重罪又ハ軽
罪トナシ罪スヘキ時

二　其犯人本心ヨリ日本國ニ帰リ来リ又ハ
犯罪國ノ政府ヨリ其引渡ヲ受ケタル時
三　被害者ヨリ日本政府ニ之ヲ告訴シ又ハ外
國政府ヨリ公然之ヲ告発シタル時
四　外國政府ニテ其罪ニ適用スヘキ大赦ヲ
受ケサル時
五　外國ノ法律ニ照シ未タ刑事ノ訴追期
滿消免ヲ経過セサル時

六 犯人外國ニ於テ未タ確定ノ裁判ヲ受ケ
サル時

第六條 日本人外國ニ於テ日本國ノ安寧ニ
関シ又ハ國璽及ヒ國ノ証券印紙及通用ノ
貨幣紙幣又ハ日本政府ヨリ許可シテ通用
貨幣ト看做スヘキ銀行ノ手形ヲ偽造スル
重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル時ハ前条ニ記載
シタル六項ヲ除クノ外一項ヨリ五項ノ具備

スルヲ要セス

第七條 何ノ国ヲ問ハス事アリト雖モ日本政府ハ
日本人民ヲ其罪ヲ犯シタル外國政府ニ
引渡サヽル可シ

第八條 外國人外國ニ在リテ第六条ニ記載
シタル重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル時ハ其犯
人日本ニ来リ且第五条ノ二項及ヒ六項ニ
從ヒ外國ニテ未タ確定ノ裁判ヲ受ケサル時

ニアラサレハ日本ノ法律ニ依テ之ヲ推問
處刑ス可カラス

第九条　現今刑法及ヒ將来頒布スヘキ
所ノ刑法ハ日本人民ニ區別ナク適用ス
可シ

又海陸軍人並之ト見做スヘキ者ニモ亦
此刑法ヲ適用ス可シ但シ海陸軍ニ関ス
ル特別ノ法律ヲ以テ處断スルトアルトキハ

此限ニ非ラス

第十條　特別ノ軽罪ニ當スル現今ノ法律ニ記シ
タル罰則及ヒ営業又ハ職務ニ管スル當時ノ
法律及ヒ規則ニ掲ケタル所ノ取締規則ニ
テ現今ノ刑法ニ抵觸セサルモノハ各其規則
ニ依テ處分ス

後来頒布スヘキ所ノ法律及ヒ規則ニ於テハ
刑法ノ総規則ヲ適用ス可シ但シ其法律及ヒ

規則中此総規則ニ依ラサルヿヲ明記シ又ハ黙許シタル時ハ此例ニ非ラス

## 第二章　諸刑

第十一條　刑ハ主刑附加刑トス

主刑ハ常ニ裁判所ニ於テ言渡サレル可カラス

附加ノ刑ハ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ別段ノ言渡ヲナサスシテ直ニ主刑ニ附加スルヿアリ又裁判所ニ於テ之ヲ言渡スヿアル可シ

第十二条　重罪ノ主刑ハ左ノ如シ

一　死刑
二　徒刑
三　流刑
四　懲役
五　囚獄ノ刑
六　終身公権剥奪ノ刑

第十三条　軽罪ノ主刑ハ左ノ如シ

一　禁錮

二　罰金

第十四条　違式罪ノ主刑左ノ如シ

一　拘留

二　壱円五拾銭以下ノ罰金

第十五條　附加刑左ノ如シ

一　公権ノ剥奪

二　公権ノ停止

三　警察ノ監視

四　私権ノ行フヲ禁ス

五　禁錮

六　罰金

七　特別ノ没収

八　犯由牌ノ掲示

第十六條　各刑ノ執行ノ方法ト其細目ハ一般

司法省

ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第十七条　死刑ハ刀ヲ以テ刎首ス

但シ死刑ノ執行ハ特別一般ノ執行規則ニ定メタル者立會ニテ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十八條　死刑ノ執行ハ司法卿ノ命令アル前之ヲ行フ可カラス

第十九条　國祭式日等ニハ死刑ヲ行フ可カラス

第二十條　死刑ニ處セラレタル婦女懐胎ト申スル時ハ其執行ヲ延ス

但シ其分娩ノ後又ハ医師二名懐胎ニアラサルヲ証シタル後ニアラサレハ刑ヲ行ハス

共医師ハ検事之ヲ命シ而シテ医師ノ説分カレル時ハ医師別ニ一名ヲ撰ミ加フ可シ

第二十一条　死刑ノ遺骸ハ親屬請フ者アレハ直
ニ之ヲ下付シ而シテ禮式ヲ用ヒス遲延ナク
葬ルノ約定ヲナサシム
第二十二条　徒刑ハ無期トス
徒刑ニ處セラレタル者ハ政府ヨリ定メタル
日本島地ニ在ル徒場ニ於テ苦役ニ服ス
本刑ヲ分テ二トス
一　重徒刑ハ期限ナク一人ヲ一室ニ鎖シテ服
役ス
一　軽徒刑ハ雜居役ニ服ス
第二十三条　重徒刑五年ヲ経過シタル後
若シ徒刑人ノ行狀ヨク且徒場ノ長並獄監
ノ申立ニヨリ雜居役ニ服スルヿヲ聽スル
ヲ得可シ（但シ）司法卿内務卿協議ノ上決定其
許可ヲナス
第二十四條　徒刑ニ處セラレタル者年六十歳

ニ満チ又裁判言渡ノ時ニ於テ已ニ此ノ年齢
ニ満タン者ハ島地ニ於テ期限ナク禁錮シテ
定役ニ服セス

第二十五條　徒刑ニ處セラレタン婦女ハ期
限ナク内地ノ懲役場ニ入レ年六十ニ満ル
迄婦女相當ノ役ニ服ス

其刑一人一室ニ鎖スヘキ重徒刑ニ訣ンモ
ノハ第二十二條及ヒ二十三条ニ從ヒ之ヲ婦
女ニモ通シテ用ユ可シ

第二十六條　流刑ハ政府ヨリ定メタル日本
ノ島地ニ發遣シ期限ナク居住セシム

本刑ヲ分ツテ二トス重流刑、軽流刑

第二十七條　重流刑ハ期限ナク獄内ニ入レ
一人一室ニ鎖ス

然レモ流刑人ハ獄内ノ規則ニ從ヒ親族ニ
面會シ及ヒ能業及ヒ工業ニ就クヲ聽

法学部

ス

第二十八條　別室五年ノ後ハ止タ軽流刑
ニ付セラレンヿヲ得可シ但シ此決定ヲ
ナスハ第二十三条ニ従フ

第二十九条　軽流刑ハ一人一室ニ鎖セス
此軽流刑人ハ常ニ其親族ニ面會スンヿヲ
得可シ又政府ニ於テ其配偶者其尊属卑属
ノ親ヲシテ流刑人ト居住スンヲ聽スヿヲ

得可シ
流刑人ハ尚ホ耕作ノ為メ土地ヲ附與セラ
レルヿヲ得可シ
又其流刑人ノ内ニテ其人ニヨリ私権ノ一部
又ハ全部ヲ行フヲ聽スヿヲ得可シ
其親族ト住居スンノ免許並土地ノ附與
ハ流刑人中ニテ人ニヨリ之ヲ許可スンモノ
トス而メ規律及ヒ規則ニ觸レタン犯罪ニ

付其免許ヲ廢止シ並ニ其附與シタル土
地ヲ取上ルヿヲ得可シ

第三十條　懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ苦
役ニ服ス

本刑ヲ分ツテ二トス

第十種ノ懲役ハ十年ヨリ十五年ニ至ル期ト
シ而シテ一年間一人一室ニ鎖ス

第十種ノ懲役ハ五年ヨリ九年ニ至ル期ト
シ而シテ六月間一人一室ニ鎖ス

第三十一條　禁獄ノ刑ハ内地ニアル特別ノ獄舍
ニ入レ其刑ヲ行ヒ而テ一人一室ニ鎖セス又定
役ニ服セス

本刑ハ其期ヲ分ツテ二種トス

第一種ハ十年ヨリ十五年

第二種ハ五年ヨリ九年

本刑ニ處セラレタル者ハ政府ヨリ本刑ヲ

軽流刑ノ為メ設ケラレタル地ニ於テ受ク
ルノ便益ヲ得ルヿヲ得

第三十二條　主刑トシテ言渡シタル剥権ハ
無期トス

剥権トハ左ノ件々ヲ云フ

一　政権及ヒ其性質及法律ニヨリ日本人民
ノ特権

二　給料アルト否トヲ問ハス政府ノ官吏及ヒ
公然タル職務ヲ剥奪シ及其官職ニ補任
スルヲ禁スル事

三　内國ノ賞牌位記貴号ヲ剥奪シ並外國ノ
賞牌ヲ帯ヒルノ権

四　日本ノ海陸軍隊トナルヿ及ヒ兵器ヲ帯ヒ
ル権

五　私ノ証書ニ証人トナリテ手記調印スルノ
権止タ事実ヲ陳述スル為メニ非ラサレハ

裁判所ニ於テ証拠ヲ申立ル ノ権

六 已レノ子ノ為メト雖モ親族ノ許可ヲ得ル ニ非ラサレハ不能力者ノ後見人又其後見人ノ監察者トナル ノ権

七 分散人、會社又共益ノ財産ノ管財人ハ支配人トナル ノ権

八 私立学校ノ長又教導教監トナル ノ権

九 改事新聞ノ社長トナル ノ権

第三十三條 剥奪ノ刑ハ之ヲ分科スルヿヲ得

裁判官ニ於テ前條ニ記載シタル権ノ二箇又ハ二箇以上ノ剥奪ニ非サレハ言渡スヿヲ得ス但シ前条一項二項ニ記シタル権ハ常ニ剥奪スルモノトス

若シ裁判官ニテ何権ト分割スルヿナク一体ニ剥奪ト言渡シタル片ハ前條ニ記載シタル

権ノ全部ヲ奪フモノトス

第三十四條　禁錮ノ刑ヲ分ツテ二トス

一　負役重禁錮ノ刑ハ懲治場ニ於テ之ヲ行フ

二　軽禁錮ノ刑ハ特別ナル獄舎ニ於テ之役ニ服セシメ之ヲ行フ

若シ法律ヲ以テ軽罪ニ付特別ノ短期ト長期トヲ定メス禁錮ノ刑ニ處スヘシトアルトキハ

第三十五条　何レノ場合ニ於テモ本刑ニ依テ定役ニ服セラレタル時ハ其作業ヨリ生シタル物又ハ其評價シタル高ヲ分ツテ三部トシ其二部ヲ獄舎ノ費用ニ供シ而シテ他ノ一部ハ本人並其親屬ノ需用ニ供シ若シ其刑有期ニ就レハ出獄ノ時ノ貯金トナサシム若シ其刑無期ナルトキハ老者廃篤疾者ノ歓娯ヲ得セシムルノ需用ニ供シ而シテ此ノ方法ハ総テ其規則ニ從フ可シ

定役ニ服セサル者ノ作業ヨリ生シタルモノハ前項ニ記セシ用法ニ從ヒ夫ヲ本人ニ給シ

其期限ハ十一日ヨリ短キヿナク五年ヨリ長キヿナカル可シ

第三十六條　軽罪ノ罰金ハ二円ヨリ少カラス若シ法律ニ特別ナル多數ノ高ヲ定記セサルトキハ百円ニ至ル迄加重スルヿヲ得

第三十七條　拘留ノ刑ハ拘留所ニ於テ之ヲ行フ其期限ハ一日ヨリ短カラス若シ法律ニ十日以下ノ長期ヲ定記セサルトキハ之ヲ十

司法省

其他ノ央ハ獄舍ノ費用ニ供ス

日ニ至ル迫加重スルヿヲ得

第三十八條　速警罪ノ罰金ハ若シ法律ニ特別ノ定數ヲ記セザレハ五錢ヨリ一円五十錢トス

第三十九條　主刑トシテ言渡シタル罰金ハ當然完納スヘキノ求ヲ請タル日ヨリ一ケ月内ニ完納セサルトキハ更ラニ裁判言渡スヿナク一円ヲ一日トナシ軽禁錮ニ換フ但シ其期限ハ罰金ノ高ノ央又ハ其上納残額ノ央ニ至ル迫トス

此ノ犯人ヲ禁錮スルハ検事ノ求ニヨリ裁判所長之ヲ命ス可シ

第四十條　犯人並其親属ハ罰金ヲ完納シ又ハ其残額ヲ上納シテ禁錮ヲ免カレルヿヲ得

但シ已ニ禁錮ニテ経過シタル日限ハ金額ノ内ヲ控除ス可シ

第四十一條　罰金ヲ換ヘタル禁錮ノ期限ヲ経過シタル後ニ於テモ其罰金前同様ノ差引ヲ以テ納メサル可カラス

第四十二條　若シ罰金ヲ禁錮ノ刑ニ附加シテ言渡シタル時其罰金ニ換ヘタル禁錮ハ主刑トシテ言渡シタル禁錮ノ期限ヲ経過シタル後ニ非ラサレハ始ムルヿヲ得ス

第四十三條　逮警罪ノ罰金ハ其納ムヘキ日ヨリ五日ヲ過キテ納メサレハ前条ニ同シキ方法ニ從ヒ一円又其以下ノ金額ヲ一日トナシ拘留ニ換フ

第三節　附加刑

第四十四條　第十二條ニ記載シタル公権剥奪ノ刑ヲ除クノ外重罪ノ刑ノ一ヲ用テ罰セラレタル者ハ別段ノ言渡シナク直ニ第三十二條ニ記載シタル公権ノ全部ヲ期限ナク剥奪シタ

特ニ宣告ヲ用ヒス

ルモノトス

第四十五條 軽罪ニ付キ禁錮ノ刑ニ処セラレタル者已ニ公然タル官職ヲ有スレハ別段ノ言渡ナクトモ之ヲ失フモノトス

第三十二條ニ記載シタル其餘ノ権ハ別段ノ言渡シナクトモ本刑期限間停止ス但シ本條ノ第三項ニ記シタルモノハ此限ニ非ラス

第四十八條 法律ヲ以テ重禁錮ヲ言渡シタルトキハ裁判所ニ於テ尚法律ニ定記シタル禁錮ノ期限ニ等シキ時間公権ノ全部又幾部ヲ停止スルヲ得

若シ其刑軽禁錮ナルトキハ裁判所ニテ法律ニ定記シタル場合ト時間トニ非ラサレハ公権ノ全部又ハ幾部ヲ停止スルヲ得ス

停止ノ時間ハ主刑タル禁錮ノ刑ヲ経過シタル

時ヨリ始ルモノトス

第四十七條　第十二條ノ一項二項三項ニ記セシ無期ノ刑ニ処セラレタル者若シ赦、減等ヲ得又ハ期満免除ヲ経過シタル時ハ別段ノ言渡シナクトモ直ニ終身警察ノ監視ニ付シタルモノトス

第四十八條　懲役禁獄ノ刑ニ処セラレタル者ハ別段ノ言渡シナクトモ直ニ法律ニ記載シタル本刑ノ長期ニ等シキ時間警察ノ監視ニ付シタルモノトス

第四十九條　重禁錮ノ刑ニ処セラレタル者ハ別段ノ言渡シナクトモ法律ニ記載シタル本刑ノ長期ニ等シキ時間警察ノ監視ニ付シタルモノトス

軽禁錮ハ法律ニ定記シタル時ニ非ラサレハ警察ノ監視ニ付スル可カラス

第五十條　警察ノ監視ヲ有期ノ刑ニ附加スル
ハ本刑ヲ經過シタル後其期ヲ筭フ可シ
若シ主刑ヲ免シ止タ警察ノ監視ノミヲ言
渡シタル時ハ其監視ノ確定シタル日ヨリ
其期ヲ筭フ可シ
第五十條　警察ノ監視ニ付シタル外國人ハ
日本ノ政府決定ヲ以テ日本國ヨリ之ヲ放逐
ス可シ

第五十二條　警察ノ監視ニ付スル人ノ効ハ一般
ノ執行規則ヲ以テ之ヲ定ム
第五十三條　徒刑、流刑、懲役ノ刑禁獄ノ刑ニ處
セラレタル者ハ其刑期間私權ヲ行フヲ禁ス
又死刑ニ處セラレタル者ハ行刑ニ至ルマテノ
時間並期滿免除ニ至ル時間ハ前項ニ等シク
私權ヲ行フヲ禁ス犯人ノ財産ハ親屬會議
ト犯人ノ意見ヲ聞キ裁判所ヨリ命シタル後見

人ヲシテ之ヲ支配セシム
其余ハ不能力者ノ後見ノ為メ定メタル規則
ニ従フ
軽重流刑並ニ獄ノ刑ニ處セラレタル者ハ人
ニヨリ政府ヨリ私権ノ全部又ハ幾部ヲ行
フヿヲ聽シヲ受ルヿヲ得
又之ヲ廃止スルヿヲ得
第五十四條　刑期ノ時間ハ金額及ヒ犯人所有
物ノ入額ヲ犯人ニ渡ス可カラス
第五十五條　刑ヲ受ケタル者ノ財産ハ其刑
期ノ終リシ後之ヲ本人ニ還與シ後見人ヨリ
支配中ノ筭計ヲ為ス可シ
第五十六條　法律ヲ以テ主刑トシテ公権剥
奪ヲ言渡シタル時ハ三月ヨリ二年ニ至ル
禁錮ヲ附加シテ言渡スヿヲ得
公権剥奪ニ處セラレタル婦女及外國人ニハ

必ス禁錮ヲ附加ス

第五十七條　法律ヲ以テ殊ニ罰金高ヲ定記セサルトキハ二円ヨリ百円ニ至ル軽罪ノ罰金ヲ常ニ公権剥奪ニ附加ス

其他ノ刑ニハ法律ニ正條キアルニアラサレハ罰金ヲ附加ス可カラス

第五十八條　特別没収ハ必ス其言渡シヲナサスシテ没収スルヿヲ得ス裁判所ニ於テ之ヲ言渡サヽル可カラス

一　所有者ノ何人タルヲ問ハス法律ニ背キテ制造シ及ヒ収納シ及ヒ所有シタル物件

二　犯罪ノ用ニ供シタル物件

三　犯罪ヨリ得タル物件但シ二項三項ニ於テハ其物件ノ犯人ニ属スルトキ但シ法律ニ正条ヲ以テ特ニ定記シタル没収ト抵觸スルヿナカ

ル可シ

第五十九條　重罪ノ刑ノ言渡書ハ其文ヲ摘撮シテ貼付ス可シ

一　裁判言渡サレタル府

二　重罪ヲ犯シタル首府又ハ邑

三　犯人最終ノ住所ノ地

其摘撮書ニハ犯人ヲ罰シタル事並其重罪ノ性質及其罪名刑名ヲ祥細ニ記ス可シ

軽罪ニ處セラレタルモノ犯由牌ハ法律上ニ特ニ掲載シタル時ニ非ラサレハ貼付廣告ス可カラス

第六十條　犯罪ノ何カナルヲ問ハス刑事ノ裁判費用ノ全部又ハ幾部ヲ犯人ニ科スルヲ得

若シ之ヲ納メサルトキハ第三十九條ニ從ヒ費用金一円又ハ一円以下ヲ一日ノ割合ヲ

以テ其費用金ノ全額ニ至ル迄禁錮ニ換フ
可シ

第五十一條 犯人ヲ刑ニ處シ又之ヲ放免ス
ルトキハ被害者ヨリ求ム所ノ追給、損害ノ償ヲ
言渡スニ差支トナム可カラス

其損害ノ償ハ刑事裁判所ニ於テ、民法ニ從ヒ
受理スルヲ得可シ

第六十三條 犯人ノ財産ヲ以テ償フニ足ラサ
ルトキハ犯罪ニ付當然償フヘキ金額ヲ左ノ
順序ニ從ヒ之ヲ納メシム

一 會計局ニ納ムヘキ刑事裁判費用
二 民事ノ償
三 罰金

第六十四條 同一ノ犯罪ニ付正犯又附從又ハ
其犯罪ニ付民事上ニテ其損害ヲ擔當スヘ
キ者トシテ言渡サレタル者ハ裁判費用追

還、民事損害ノ償ニ於テハ皆連帶ス

第四節　刑期ノ計算

第六十四條　有期ノ刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルモノハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルモノハ三十日ヲ以テス入監ノ日ハ一日トナシ出監ノ日ハ正午十二時ヲ以テ終リトス

第六十五條　何カナル刑ト雖モ其刑ノ確定セサル前ニ之ヲ執行スルヿヲ得ス

第六十六條　実決ノ刑ハ入監ノ日ヨリ起算ス

然レトモ若シ犯人紀問ノ全部又ハ幾部ノ時間已ニ留置キニナリタルトキハ其留置ノ日數ヲ左ノ區別ニ從ヒ本刑ヨリ控除ス

一　軽禁錮ノ刑ハ留置ノ一日ハ一日一月ハ

一月

二　重禁錮ノ刑ハ留置日数ノ半

三　有期重罪ノ刑ハ留置ノ日数ノ四分ノ一

以上裁判確定ノ延引シタル原由ノ如何ヲ問ハス一体ニ此ノ計算ヲ用ユ

第六十七條　拘留ヲ除クノ外実決ノ刑ニ處セラレタル者其刑期ノ四分三ヲ経過シ而メ行狀正シク悔悟改心ノ証ヲ表スルトキハ第二十三條ニ従ヒ卿ノ決定ニヨリ仮出獄ヲ許スヿヲ得

仮出獄ヲ許サレタル者ハ定則ニ従ヒ特別ニ本刑ノ期限ヲ経過スルニ至ルマテ警察監視ニ付ス

若シ其期限中更ラニ禁錮ニ處セラルヘキ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタルトキハ直ニ仮出獄ノ便益ヲ失ヒ而メ再ヒ其犯人ニハ仮出獄ヲ許スヿヲ得ス各刑ヲ皆全ク受ケサル可カラス

第四節　刑ノ消滅

第六十八條　刑ハ左ノ件々ニヨリテ消滅ス

一　財産ニ對シ言渡サレタル刑ヲ除クノ外犯人ノ死去スル時

二　現ニ有期ノ刑ヲ経過シタル時

三　二罪俱発重ニ從フタル時

四　大赦、小赦、減刑ヲ行フタル時

五　天皇陛下ノ特典ヲ以テ刑ヲ廃止シ又ハ刑期ヲ減シタル時

六　期滿免除セル時但シ公権剥奪ハ此限ニ非ラス

七　復権シタル時

第六十九條　刑ノ期滿免除ハ左ノ如シ

一　死刑ハ三十年

二　徒刑ハ二十五年

三　流刑第一種ノ懲役並ニ禁獄ハ二十年

四 第二種ノ懲役並ニ禁獄ハ十五年

五 軽罪ノ禁錮ハ十年

六 軽罪ノ罰金ハ五年

七 拘留ハ二年

八 違警罪ノ罰金ハ一年

第七十條 對審（出席裁判ヲ云）抗傳（重罪欠席裁判ヲ云フ）欠席（軽罪欠席ヲ云）ノ裁判言渡ニ論ナク其期滿免除ヲ起算スル八本刑ノ確定シ而シテ其行刑ヲ遁（逃亡）シタル日ヲ以テ始メトス

若シ本刑実決ニ訣ンキハ犯人ヲ捕縛シ又本刑罰金等ニ訣ンキハ其罰金等ノ本人追徴處分ヲナシタルトキハ其期滿免除ヲ中止ス

第七十一條 附加ノ刑ハ本刑ト共ニ免除ス但シ左ニ記スル所ノ例外又ハ変改スルモノハ此限ニ非ラス

一 重罪ノ刑ニ附加シタル公権剥奪ハ期滿免

除ナキモノトス

無期ノ刑ニ附加シタル警察ノ監視モ亦

同シ

二 公権ヲ停止スルノ期満免除ハ其主刑タル

禁錮ノ刑ノ消滅シタル後ニ非サレハ之ヲ

起算セス但シ有期重罪ノ刑又ハ軽罪ノ刑

ニ附加シタル警察監視モ亦同シ此両件ニ

於テ期満免除ノ期限ハ十年トス

三 警察ノ監視ノミヲ言渡シタル件ハ其期満免

除ハ其刑ノ確定シタル時ヨリ筭ヘ十年ト

ス

四 公権剥奪ニ附加シタル禁錮ノ期満免除

ノ期限ハ五年トス

五 附加刑トシテ言渡シタル罰金ノ期満免

除ハ其高ニ従ヒ軽罪ノ罰金又ハ違警罪ノ

過料期満免除ニ同シ

司法省

六　法律ニ背キ製造シ又収納シ又ハ所有シタル物件ニ関シタル特別没収ハ期満免除ノ限ニ非ラス但シ第五十八條二項三項ニ記載シタル場合ニ於テハ其裁判ノ確定シタル日ヨリ爾ヘ五年ヲ以テ其期満免除トス

七　會計ニ納ムヘキ裁判費用ノ期満免除ハ其高ニ從ヒ罰金ノ過料期満免除ニ同シ

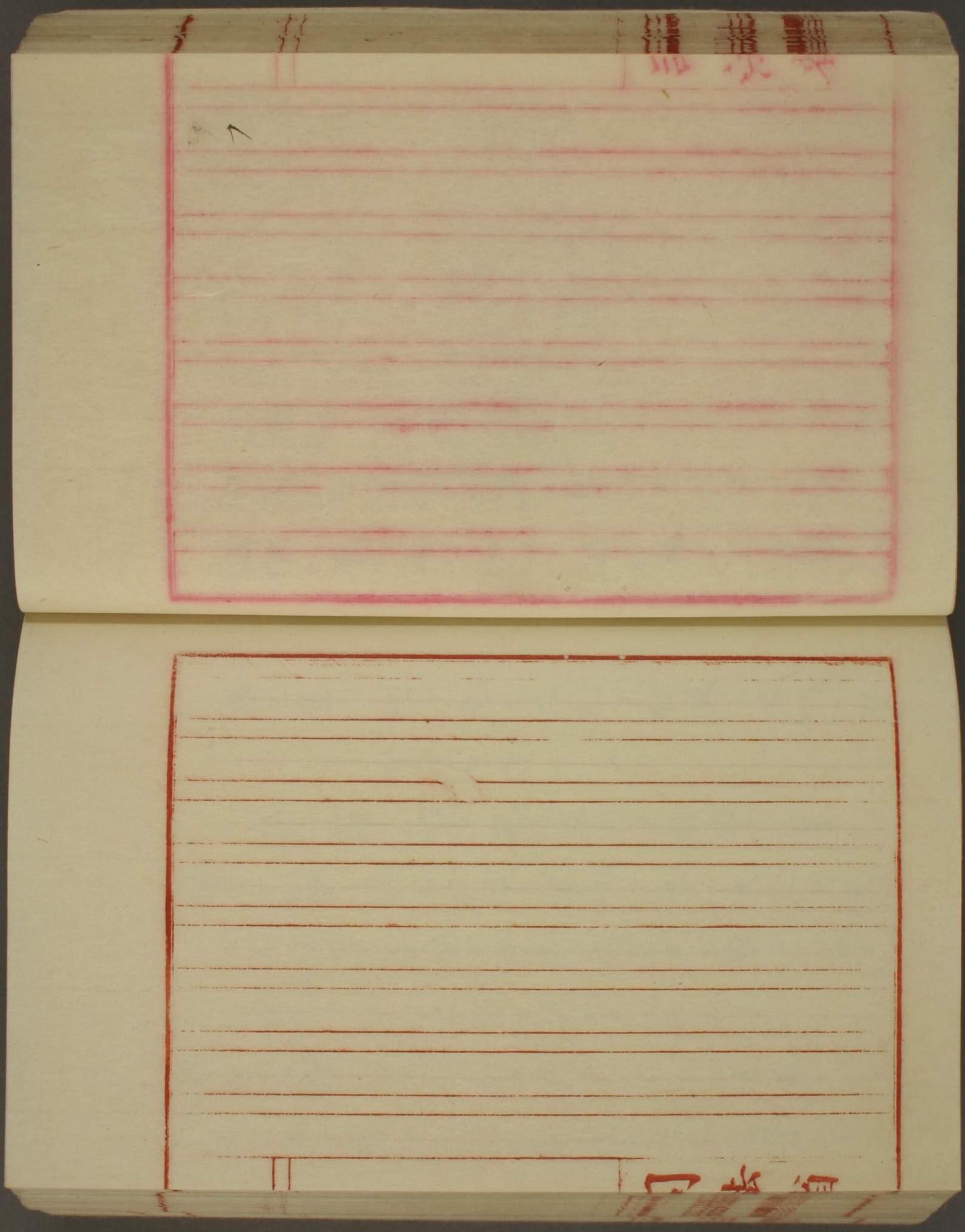
被害者ニ拂フヘキ民事ノ裁判費用並ニ追給及ヒ民事ノ償ノ期満免除ハ民法ニ從フ

第七十二條　復権ハ公権剥奪並ニ警察ノ監視ヲ止メシムル為メ之ヲ求メ而メ之ヲ得ルヲ得

復権ハ天皇陛下ニ非ラサレハ之ヲ聽スヲヲ得ス

復権願ハ主刑トシテ言渡サレタル刑ノ公権

剥奪ナルトキハ其處刑ノ日ヨリ十年ノ後又
附加刑トシテ言渡シタルトキハ本刑ノ消滅
シタル日ヨリ五年ノ後ニ非ラサレハ之ヲ為
スヿヲ得ス
重罪ニ付警察ノ監視ニ付セラレタル者ノ
復権願ハ若シ監察ノミヲ言渡サレタルトキハ
其言渡ノ日ヨリ五年ノ後又ハ監視ヲ主刑ニ
附加シタルトキハ主刑ノ消滅シタル時ヨリ
五年ノ後ニ非ラサレハ之ヲ願フヿヲ得ス
軽罪ニ付警察監視ニ付セラレタル者ノ
復権願ハ監視ノ時間ノ半ヲ経過シタル後
ニ非ラサレハ之ヲ願フヿヲ得ス
若シ再犯者並主刑ヲ期滿免除ニヨリテ消滅
シタル者ハ此二倍ノ期限ヲ経過シタル後
之ヲ為ス可シ
復権ノ式並其他ノ方法ハ治罪法ノ規則ニ從



第三章　刑ヲ免シ又刑ヲ軽減シ又刑ヲ加重スルコト

第一節　刑ヲ免シ又刑ヲ軽減スル事

第七十一條　或ル犯罪ニ付刑ヲ免シ又刑ヲ軽減スル特別ノ原由ノ外左ニ記載スル條々ニ於テハ一般刑ヲ免シ又刑ヲ軽減スルコトアリ

第七十二條　法律ヲ以テ罪トナスヘキ所為ナリトモ左ノ件々ニ於テハ重罪軽罪又違警罪トモ

司法省

云フ可カラス

一 抗拒ス可カラサル脅迫ニ遇ヒ已ムヲ得サル
ニ出テ為シタル時

二 天災（破船洪水火災地震又戦争）ニヨリ非常ノ危難ニ遇ヒ
自己ノ身体及ヒ其親属ノ身体ヲ保護セシ
為メニ出テ為シタル時

三 法律ニ従ヒ又ハ本属長官ノ職務ニ付其命
令ニ出テ為シタル時

第七十三條 犯スノ意ナクシテ罪ヲ犯シタル
ハ其刑ヲ免ス可シ但シ法律ヲ以テ規律又ハ
規則ヲ単ニ守ラサル行ヲ罰スルモノハ此限
ニアラス

若シ罪トナルヘキ情状ヲ知ラサル時モ亦同
シ

若シ罪元重ナルヘキ情状ノ一箇又二箇以上
ヲ知ラサル時ハ其重キニ従フヲ得ス

刑法ヲ知ラサル者ニシテ其犯スノ意ナキト
ナスヿヲ得ス

第七十四条 罪ヲ犯ス時犯人精神錯乱シタル
ヿハ罪ス可カラス

罪ヲ犯スノ目的ニテ故ラニ酩酊シタル者ハ
本條ノ便益ヲ得ルノ限ニアラス

第七十五条 罪ヲ犯ス時犯人ノ年齢満十二歳
以下ナル者ハ罪ス可カラス

然レトモ裁判所ニ於テ其所為ノ模様ト其軽重ト
ニ従ヒ定メタル時間特ニ設ケタル懲戒所ニ留
置スルヿヲ命スルヿヲ得可シ但シ其時間ハ
犯人ノ年齢満十六歳以上ニ至ルヲ得ス

第七十六条 犯人満十二歳以上満十六歳以下
ナル時ハ裁判所ニ於テ其幼者ノ所為辨別ア
リテ為シタルヤ又辨別ナクシテ為シタルヤ
ヲ糺問ノ上審判ス可シ

司法省

若シ幼者ノ所為辨別ナクシテ為シタルトキ

陳述スル時ハ刑ヲ科ス可カラス然レトモ前

条ニ記セシ如ク犯人ノ年齢満二十歳ニ至

ル迄犯人ヲ留置スルヲ得

若シ幼者ノ所為辨別アリテ為シタルトノ審

判アル時ハ本刑ヲ宥恕シ而メ罪ヲ犯ス時

犯人ノ年齢満二十歳ナルトキニ於テ處セラ

ルヘキ刑ヲ左ノ区別ニ従ヒ換フ

一　死刑ハ第一種ノ懲役

二　徒刑ハ第二種ノ懲役

三　流刑ハ第二種ノ禁獄

四　第一種及ヒ第二種ノ懲役ハ重禁錮但シ

第一種ノ懲役ハ二年ヨリ五年ニ至ル

第二種ノ懲役ハ六月ヨリ二年ニ至ル

五　禁獄ハ軽禁錮但シ其期限ハ前項ノ区

別ニ従フ

司法省

六　公権剥奪ハ六月ヨリ二年ニ至ル禁錮

七　軽罪ノ禁錮及ヒ罰金ハ四分ノ三ヲ減ス

第七十七条　罪ヲ犯ス時犯人満十六歳以上二十歳以下ナル者ハ恒ニ辨別アリテ犯シタルモノト見做スト雖モ本刑ヲ宥恕シ而ノ罪ヲ犯ス時犯人ノ二十歳以上ノ時ニ於テ處セラルヘキ刑ヲ左ノ區別ニ従ヒ換フ

一　死刑ハ重徒刑〔又ハ重流刑〕

二　重徒刑ハ軽徒刑

三　軽徒刑ハ九年ノ懲役

四　重流刑ハ軽流刑

五　軽流刑ハ九年ノ禁獄

六　九年ノ懲役ハ九年ニ種ノ懲役

七　九年ニ種ノ懲役ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮

八　九年ノ禁獄ハ九年ニ種ノ禁獄

司法省

九 尹二種ノ禁獄及ヒ公権剥奪ハ二年ヨリ
五年ニ至ル軽禁錮
十 重軽禁錮及ヒ軽罪ノ罰金ハ其四分ノ一ヲ
軽減ス
法律ヲ以テ重罪又ハ軽罪ノ長期ニ処スヘ
キ時ハ本刑ヲ其短期ニ軽減シ又長期ノ二
倍又ハ長期以上ニ処スヘキ時ハ普通ノ長
期ニ軽減ス

第七十八条 違警罪ニ於テ満十六歳以上二十
歳ノ幼者又満十二歳以上十六歳以下ノ幼者
ノ辨別アリテ犯シタル時ハ軽減ス可カラ
ス
第七十九条 十六歳以下ニシテ生レナカラ聾
唖ノ犯罪ハ本刑ヲ全ク免ス但シ第七十五
條及ヒ第七十六条ニ従ヒ懲戒処ニ留置ス
ルヲ得

其十六歳以上ニ係ル時ハ裁判所ニ於テ辨別
アリテ為シタルヤマタハ辨別ナクシテ為シタ
ルヤヲ紀問ノ上刑ヲ宣告ス但シ辨別アリテ
犯シタル時ハ第七十六条ニ記セシ十六歳以
上二十歳以下ノ幼者ヲ処スル刑ヲ以テ処シ
而シテ辨別ナクシテ犯シタル時ハ五年以上ニ
至ラサル期限留置スルヲ得

第八十條　重罪、軽罪、違警罪ニ於テ犯人ノ便益
ノ為メ已ニ法律上ニ定メタル宥恕又ハ犯人
ノ害ノ為メ加重スヘキ情状アルトキト雖モ犯
人ト認メラレタル者ノ為メ酌量軽減スヘキ
情状アルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ言渡スヲ
得
軽減スヘキ情状ハ裁判官ノ監定ニ任スト雖
モ裁判言渡書ニ其事状ヲ審ニ名記セサル可
カラス若シ之ヲ記セサレハ其効ヲナシトス又

公益ニ反スル理由ヲ以テ酌量軽減スルトキモ
亦其効ナシトス
第八十七條　重罪及ヒ軽罪ニ於テ酌量軽減ス
ヘキ情状ノ一箇又數箇アリテ軽減スルトキハ
本刑ヲ第七十九条ニ記セシ刑ノ階級ニ從ヒ
一等又ハ二等ヲ軽減ス
若シ本刑軽罪ノ禁錮又ハ罰金ニ該リ酌量軽減
スヘキ情状アルトキニ於テ一等ヲ軽減スルハ四
分ノ三又ハ二等ヲ軽減スルハ其半ヲ軽減ス
可シ
第八十八条　違警罪ニ於テ若シ本刑拘留過科
共ニ科ス可キトキハ其一ニ拠テ処ス若シ
法律ヲ以テ本刑ヲ拘留又ハ過科ニ処スヘキ
時ハ裁判所ニ於テ本刑拘留ニ該レハ其短期
又過科ニ該レハ四分一又ハ半ニ降減スヘシ
ヲ得

司法省

第三節　刑ヲ加重スル事

第八十三条　重罪又ハ軽罪ノ刑ヲ加重スルヲ特ニ定メタル外重罪又ハ軽罪ニ論ナク通常左ニ掲ル所ノ二箇ノ原由アルトキハ刑ヲ加重ス

一　犯人先キニ一罪又ハ數罪ニ付處刑セラレタル後再ヒ罪ヲ犯シタル時

二　犯罪ヲ豫防シ又ハ之ヲ制止スヘキ特任ヲ受ケシ官吏其罪ヲ犯シタル時

第一　再犯ニヨリ加重スル事

第八十四条　先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者更ニ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル時其再犯ノ刑ハ左ニ記スル如ク加重ス

一　重徒刑ニ処シタルトキハ一人一室ニ鎖スル事ヲ止ムル期ヲ二倍ニス

二　軽徒刑ニ処シタルトキハ重徒刑ニ處ス

三　軽重流刑ハ徒刑ト同シキ方法ヲ以テ之ヲ
加重ス

四　公権剥奪ノ刑ハ常ニ第五十四条ニ記載シ
タル所附加ノ禁錮ノ長期ヲ加重ス但シ
其期ヲ長期以上ニ加重スルヿヲ得

五　有期重罪ノ刑ハ各其長期ニ処ス但シ其
期ヲ長期以上ニ加重スルヿヲ得

六　重罪ヲ犯シ軽減ニ依テ軽罪ノ刑ニ處ス
ヘキ時又ハ軽罪ヲ犯シタル時ハ長期ニ処
シ但シ其長期以上ニ加重スルヿヲ得

七　罰金ハ前六項ト同シ法方ヲ以テ加重
スルヿヲ得

第八十五条　重罪又ハ軽罪ヲ犯シ一年以上ノ
禁錮ニ處セラレタル者更ニ重罪又ハ軽
罪ヲ犯シタル時ハ本刑ヲ左ニ記載スル如
ク處分ス

一　無期ノ刑ハ加重セス

二　公権剥奪ノ刑ハ附加禁錮ノ長期ヲ加重ス

但シ其長期以上四分ノ一ヲ加重スルヲ

得

三　重罪軽罪ニ論スヘキ有期ノ刑ハ其長期ニ処

ス但シ其長期以上四分ノ一ヲ加重スルヲ

得

四　罰金モ亦同シ

第八十六条　先キニ一年以下又軽罪ノ罰金

ニ処セラレタル者更ニ軽罪ヲ犯シタル

ヨリ其受クヘキ刑ハ本刑ノ短期ヲ短期ト長

期ト共ニ加重ス

第八十七条　再犯ニヨリ附加刑ヲ加重スル

ハ主刑ニ同シ

第八十八条　再犯加重ヲ論スルハ初犯ノ裁

判確定シタルトキニアラサレハ之ヲ為スヲ

ヲ得ス

第八十九条　先キニ處セラレタル刑ヲ大赦又ハ期満免除ニ依テ消滅シタルトキハ再犯加重ノ限ニ非ラス

第九十条　海陸軍裁判所ニ於テ刑ヲ受ケシ者其後更ニ軽重罪ヲ犯スニ因リ再犯ノ刑ニ処ス可キハ嘗テ海陸軍ノ裁判所ニ於テ其刑法ヲ用ヒス通常ノ刑法ニ從テ刑ヲ言渡シタル軽重罪ノ場合ノミニ限ル可シ

第九十一条　再犯ニ依リ重渡シタル刑ハ初犯ノ刑ト混同スルヲ得ス又再犯重キ刑ニ係ルヲ以テ初犯軽刑消滅スルヲ得ス

然レトモ一罪無期又ハ有期若クハ二罪トモ無期ノ刑ニ係ル時ハ一ノ重キ刑ヲ執行ス又ハ二罪トモ有期ノ刑ニ係ル時ハ重キ刑ヲ

司法省

先ニ執行ス

第九十二条　違警罪ノ再犯ハ先キニ違警罪ヲ犯シ処刑セラレタル後一年内前ノ違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ更ニ其罪ヲ犯シタルトキニアラサレハ之ヲ加重スルヲ得ス

再犯ニ於テ若シ法律ヲ以テ拘留又ハ過科ニ處スヘキ時ハ各本刑ノ長期又ハ多數ニ處シ若シ拘留及ニ過料ヲ合セ科スヘキ時ハ上タ両刑ノ内ノ一ノ長期（多數）ニ科ス

第九十三条　官吏ノ犯罪ヲ豫防シ又ハ制止スヘキノ委任ヲ受ケ其罪ヲ犯シタルトキハ本刑ヲ通常ノ再犯加重ニ從ヒ処ス

若シ官吏ノ犯シタル特別ノ重罪軽罪ニ付法律ヲ以テ特ニ刑名掲載シタルトキハ本条ヲ以テ處断スルヲ得ス

司法省

第四節　加減ノ順序

第九十四条　犯罪ノ性質ニ依リ同時ニ特別又ハ一般ノ原由ヲ以テ加重軽減スヘキ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム

一　犯罪ニ付特別ノ加重

二　犯罪ニ付一般ノ加重

三　犯罪ニ付特別ノ軽減

四　犯罪ニ付一般ノ軽減

五　犯罪ニ付酌量軽減

第四章　數罪ノ共合スル事

第九十五条　罪ヲ犯シ未タ裁判ヲ経サル二罪以上ノ発覚シタルトキ其受クヘキ各種ノ刑ヲ合セ科ス但シ左ニ記スル所ノ取除ハ変換ハ此限ニ非ラス

一　二罪以上ノ違警罪ニシテ過料ニ該ルトキハ之ヲ合セ科スルト雖モ十円以上ニ至ルヲ

得ス又其拘留ニ訣ンキハ之ヲ共合シテ
普通ノ長期以上ニ至ルヲ得ス
二 違警罪及ヒ軽罪ノ発覚シタン時ハ止タ軽
罪ノ刑ニ処ス
三 二罪以上ノ軽罪又ハ軽罪ノ刑ニ処スヘキ
重罪ノ発覚シタン時ハ各種ノ刑ニ処ス
ト雖モ各其長期以上ニ至ルヲ得ス
若シ重禁錮及軽禁錮ノ俱発シタンキハ
二刑ヲ合セ科ス重禁錮ヲ先キニ行ヒ軽
禁錮ヲ後ニ行フ重禁錮ノ期限ヲ以テ軽
禁錮ノ期限ヲ控除ス
四 二罪以上ノ軽罪及ヒ重罪ノ発覚シタン
時ハ止タ重罪ノ刑ニ処ス
然レトモ若シ公権剥奪及重禁錮ノ発覚
シタンキハ各合セ科ス
五 二罪以上ノ無期ノ重罪ノ発覚シタン時ハ

一ノ重キニ依テ処ス

六 流刑及ヒ懲役ノ発覚シタルトキ懲役ヲ先キニ行フ

七 懲役及禁獄ノ発覚シタルトキハ懲役ノ期限ヲ以テ禁獄ノ期限ヲ控除ス尚カナル時ト雖モ両刑共其長期以上ニ至ルヲ得ス

第九十六条 前条ノ規則ハ一時又ハ各時ニ二罪以上ノ犯罪ノ発覚シタルニ論ナク之ヲ通シ用ユヘシ

然レトモ各時ニ二罪以上ノ発覚シタル場合ニ於テ若シ已ニ先キニ二罪以上ノ俱発シタトキハ宣告セサリシ所ノ軽キ刑ハ重キニ混同ス仍テ已ニ完納シタル罰金過料ハ本人ニ返還シ而ノ其実決ノ刑ニシテ現ニ経過シタル期限ハ一日ハ一日ノ割合ヲ以テ有期ノ重罪実決又ハ軽罪ノ刑ヨリ控除ス

司法省

第九十七条　一罪ヲ犯スニヨリ許多ノ法目ニ觸レタルトキハ一ノ重キニ從ヒ之ヲ処ス

## 第五章　犯罪ニ數人ノ共犯

### 第一節　正犯

第九十八条　數人一致シテ重罪又ハ軽罪ヲ犯スヿヲ直ニ組合ヲナシタルモノハ各十人ニテ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタルモノヽ如ク刑ニ処ス但シ法律ヲ以テ人ノ多數ニヨリ本刑ヲ加重スルトキハ此限ニ非ラス

第九十九条　贈物、約束、脅迫、擅權、奸謀ヲ以テ人ヲシテ重罪又軽罪ヲ犯スヿヲ挑唆シ又ハ之ヲ決心セシメタル者ハ正犯ト見做ス但シ法律ヲ以テ挑唆者ノ刑加重スル場合ト抵觸スルヿナカレ（佛刑法百二十四条二百二十一条二百九十三条ヲ参照ス可シ）

公ケニ演説ヲナシ又書物ヲ刊行シ又之ヲ

分派シテ國又國内安寧ニ関シ又人民ニ對シ
重罪軽罪ヲ犯スヿヲ挑唆シタル者モ亦同
シ

第百條　法律ヲ以テ其身分ニヨリ一人又
數人ノ刑ヲ加重スルノ情状アルニ於テハ
其犯罪ニ組合ヲナシタルトキ其罪ノ重カル
ヘキノ原由ヲ知リテ之ヲ為シタル者ハ加
重ノ刑ニ処ス

然レトモ正犯ノ内ニ人再犯加重ニ該ルモノハ
他ノ正犯者ニ其加重ヲ及ス可カラス

第二節　附從

第百一條　左ノ件々ニ於テハ重罪又ハ軽罪
ノ附從又ハ補助ト見做ス
一　罪ヲ犯ス為メ又ハ之ヲ容易ナラシムル
為メ正犯ニ器具ヲ給與シ又ハ指令ヲ
ナシ又其他ノ方法ヲ與ヘタル者

二　豫備ノ所業ヲ以テ罪ヲ犯スヲ補助シ又ハ
之ヲ容易ナラシメタル者
三　罪ヲ犯シタル後ノ所業ヲ以テ其罪ノ
成就ヲ補助シ又ハ之ヲ容易ナラシメ
タル者
前三項ハ皆罪トナルヘキ事並其罪ノ重カ
ルヘキ情状ヲ犯スヿヲ知テ為サル可カラ
ス

第百二條　盗品タルヲ知テ之ヲ預リ又買取
シタルトキハ盗品ヲ隠蔵シタル者トナシ前
条ノ第三項ノ趣意ニヨリ盗犯ノ附従ト見
做ス
第百三條　附従ハ正犯ニ對シ法律ニ定メタ
ル刑ノ半ヲ減ス
正犯ノ身分ニヨリ其罪ノ加重スヘキ事由
刑ニ處ス

ヲ知リタル附從ハ正犯ト等シク加重刑ニ
從フ
處ス

其罪ノ重カンヘキ事由ノ附從ノ一身ニ止
ムヘキハ之ヲ正犯並他ノ附從ニ及ス可カラ
ス

司法省

第　章　罪ヲ犯サントト決定試謀誤機

第　條　一人若シクハ数人共ニ重罪又ハ軽罪ヲ犯サントト決定シタル丁ハ法律上正条アルニ非ラサレハ之ヲ処スル丁ヲ得ス

重罪軽罪ヲ犯サントト罩ニ設備ヲナシタル時モ亦同シ但シ附従ノ事ニ付第　条ニ記載セシ丁ト抵觸スル丁勿レ

第　條　重罪ヲ犯サントセシ端緒ニ於テ其犯

状顕然ニシテ止タ犯人意外ノ景況ニヨリ之ヲ中止シタルトキハ已ニ行フテ遂ケタル重罪ニ第條ニ從ヒ二等ヲ減シ刑ニ処ス

第條 犯カサントセシ所行ヲ已ニ遂ルト雖モ犯人ノ意外ノ景況ニヨリ其目的タル重罪ヲ誤機シタルトキハ已ニ行フテ遂ケタル重罪ニ第条ニ從ヒ一等ヲ減シ刑ニ処ス

第條 若シ本心ヨリ其犯サントセシ所行ヲ中止シ又犯サントセシ所行ハ已ニ遂ルト雖モ其目的タル重罪ヲ本心ヨリ誤機スルトキハ現ニ犯シタル害ヲナシタル罪ニ非サレハ刑ニ処スヘカラス

第條 犯サントセシ所行アリト雖モ固有ノ性質又ハ其施用シタル方法ノ性質ニ從ヒ更ラニ害ヲ為シ能ハス又仮令害ヲ為シ得ルモ犯人ノ企望シタル目的ヨリモ更ラニ至軽ノ

害ニ非ラサレハ為シ能ハサルヲハ犯人ニ刑ヲ加ヘス又ハ止メ現ニ成シ遂ケタル害ノミヲ罰ス

第條　軽罪ヲ犯サントセシ所行又ハ之ヲ誤機シタル事ハ法律ヲ以テ特ニシタル軽罪ニ非ラサレハ前条ニ記載セシ方法ト區別ニ從ヒ之ヲ罰ス可カラス

第條　違警罪ヲ犯サントセシ所行ハ之ヲ罰セス

教師原案確定

# 日本刑法草案第二編

刑法編纂課

司法省

第二編　公ケナル事ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第一章　天皇及ヒ天皇ノ主權ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第一條　日本　天皇皇后及ヒ皇太子ノ身體ニ對シタル重罪又ハ輕罪ハ卑屬ノ親其尊屬ノ親ノ身體ニ對シ犯シタル重罪又ハ輕罪ニ同シ

第二條　二人以上陰謀決議ヲ為シ此ノ重罪

又ハ輕罪ヲ犯シタル時已レノ意外ノ景況
ニヨリ之ヲ仕損スル者ハ本罪ニ一等ヲ減
スルヿヲ得
若シ犯サントセシ端緒ニ於テ已レノ意外
ノ景況ニヨリ其所為ヲ中止シタル者ハ
本罪ニ一等ヲ減ス
陰謀ヲナスト雖モ設備ノ所為ノミナル
キハ本罪ニ二等ヲ減ス
陰謀ヲナスト雖モ未タ設備ノ所為アラ
サルキハ本罪ニ三等ヲ減ス
前条ニ記載シタル重罪又軽罪ヲ犯スノ
陰謀ヲ釀スヘキ発言スル者アリト雖モ
互ニ協議セサルキハ本罪ニ四等ヲ減
ス
第三条　第一条ニ記載シタル重罪ヲ目的ト
スルニ非ラサレハ皇朝ヲ覆シ又日本管

内ニ於テ皇権ヲ拒絶シ又皇権ヲ減殺シ
又ハ皇嗣ノ順序ヲ乱ンヲ目的トシタル
重罪ハ重流刑並ニ五千円ニ至ル罰金ニ処
ス

第四条　前条ニ記載シタル刑ハ犯人ノ
意外ノ景況ニヨリ中止シタル時ニ於
テ之ヲ科ス若シ設備ノ所為ノミナル
時ハ本罪ニ一等ヲ減シ又二人以上ニテ
商議決定シタル陰謀ノミナル時ハ本罪
ニ二等ヲ減ス
其陰謀ヲ釀スベキノ発言ヲナスト雖モ
互ニ快議セサル時ハ本罪ニ三等ヲ減
ス

第五條　第三條ニ記載シタル重罪ヲ犯ス
為メニ左ノ件ニヲ用ヒタル者ハ死刑ニ
處ス

一 人ノ住居シタル家屋又ハ公ケノ建造物海陸軍製造所政府ニ属シタル船舶ニ放火シタル時

二 火薬又地雷火水雷火ヲ破烈セシメタル時

三 戰爭ヲ為サントスル官吏其他ノ者ヲ謀殺毒殺シタル時

四 兵器ヲ持セサル兵卒勇トナリタル者人質トナリタル者其他犯人ニ抗拒シ能ハサル者ヲ殺シタル時

及ビ使節

本条ニ記載シタル者軽減スヘキ状アル時ハ普通ノ刑（徒刑懲役ノ類）ニ軽減ス

第六条 第三条ニ記載シタル重罪ヲ犯スニ乗シ其罪ヲ犯スノ方法ニ非スシテ餘罪ヲ犯シタル者ハ法例第百一条ノ例ニ照シテ処断ス

第七条　第一条第三条ニ記載シタル重罪ヲ犯スノ陰謀ニ組ミシタルニ未タ其犯サントスルノ所為アラス且未タ公訴ノ初マラサル前先キニ官署ニ陰謀ヲ自首シ且其正犯並ニ附従ヲ告知シタル者ハ本罪ヲ免ス公訴ノ初リタル後又ハ捕ニ就クト雖モ未タ犯カサントスル所為アラサル前其重立タル正犯附従ヲ捕獲スルノ助ケヲナシタル者モ亦同シ但シ前条ノ餘罪ヲ科スルハ此限ニアラス

本条ニ記載シタル者本刑ハ免スト雖モ仍ホ五年ヨリ十年ニ至ル時間警察ノ監視ニ付ス

第八条　公然直ニ天皇皇后皇太子ニ對シ為シタル不敬ノ罪ハ三月ヨリ五年ニ

至ル重禁獄並ニ五円ヨリ五百円ニ至ル
罰金ニ処ス
天皇皇后皇太子ノ目前ニアラスト雖モ
刊行又ハ公然演説又ハ言語ヲ以テ犯
シタル不敬ノ罪ハ三月ヨリ五年ニ至
ル軽禁錮並ニ五円ヨリ五百円ニ至ル罰
金ニ処ス

第二章　國ノ外部ノ安寧ヲ害スル
重罪

第一條　敵國ニ與シ日本國又ハ外國ト交戰
中日本國ト同盟シタル與國ニ敵對シタル
日本人ハ皆謀叛罪トナシ死刑ニ處ス
第二條　日本國又ハ其與國ト交戰中故ラニ
敵國ノ兵隊ニ加リタル者其他如何ナル名
義ヲ問ハス補助ヲ為ス為メ敵兵ニ附屬シ

タル者ハ謀叛ト同シク論ス

第三條　外國ト交戰中日本人敵國ノ兵隊其他敵國ノ用ヲ為ス者ヲ日本ノ領地ニ進入セシメ又ハ之ヲ容易ナラシメ又ハ日本國又ハ其與國ニ屬スル都府、城塞、陣營、港口、海陸軍製造所（一ニ武庫ト訳ス）兵器、彈藥、軍艦又ハ運漕船ヲ敵國ニ給与シタル者ハ謀叛ノ罪トナス

第四條　日本官吏又ハ其他日本人其職務或ハ公然タル職掌ニ因リ日本国又ハ其与国ノ商議ニ関スル機密或ハ其海陸軍ニ関スル密事ヲ知リ之ヲ敵国ノ人ニ洩漏シタル時ハ謀叛ノ罪ヲ以テ論ス

日本人偽計賄賂暴行ヲ以テ出兵或ハ商議ニ関スル密事又ハ其書類、圖面文書ヲ得テ之ヲ敵国ニ漏シタル時モ亦同シ

第五條　日本人、日本國又ハ其與國ノ軍隊、船隊ヲ備ヘタル要河、又ハ其擧動又海陸軍隊、又ハ金銀食料兵器彈藥ノ模樣ヲ敵国ニ知ラシメ又ハ敵国ニ内地ノ細圖ヲ渡シ或ハ敵國ノ為メ便利又ハ險阻ナル道路ヲ指示シテ敵國ノ間諜ヲシタル時ハ謀叛ノ衆トナス

日本人敵国ノ間諜又ハ探索人ヲ内地ヘ入レ又之ヲ匿シ又之ヲ導キタル時ハ内地ノ間諜ト同シク論ス

第六條　未タ戰屆ヲ送ラスト雖モ其送ラントスル際ニ於テ前二条ノ衆ヲ犯シタル者モ亦本条ニ依テ處断ス

第七條　謀叛ノ未遂犯衆ハ重徒又ハ軽徒ニ処ス

謀叛ノ衆ヲ行ハントスル目的ヲ以テ敵國

ト通信ヲ為シタル者ハ設備ノ所為ト為シ
軽徒又ハ重懲役ニ処ス
第八條　若シ外国人第三条第四条第五条第
六條ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル片ハ本
罪ニ一等ヲ減ス

第三章　国ノ内部ノ安寧ヲ害スル重
罪軽罪
第一条　院省地方各官署ノ権ヲ顛覆シ
又ハ変更シ又ハ其官署ヨリ頒布シタル
制令ヲ廃セシメ又ハ之ヲ中止セシムル
ヲ目的ト為シ内乱ヲ起シタル者ハ軽流
刑ニ処ス（原語内乱ヲ大中小三種ニ区別セリ暫ク此一語ヲ以テ三種ニ充テタリ）
本刑ハ着手セントスル始ニ於テ之ヲ科

ス

第二条　前条ニ記載シタル顛覆変更ヲ目的トシテ左ノ件々ヲ犯シタル者ハ前条同刑ニ処ス

一　海陸軍ノ製造所又ハ兵器弾薬及ビ軍備兵糧ヲ藏スル場所ニ於テ劫掠ヲ為シタル者

二　偽計又ハ威力ヲ以テ陸軍ノ陣営又ハ政府ニ船舶並ニ使用スル船舶ヲ占領シタル者

三　偽計又ハ威力ヲ以テ内乱ヲ起シタル者ヲ鎮静スル勿ソ出シタル兵隊ノ集會其他諸般ノ事務ヲ妨ケ又文書命令ノ往復ヲ妨ケタル者

第三条　兵隊ヲ招募シ又ハ編成シ又ハ兵器弾薬其他ノ軍備兵糧ヲ賊徒ニ付

ラシタル者ハ前条ニ記載シタル重罪犯
ノ設備ノ所行トナシ重禁獄ニ処ス
但シ常人ニシテ常備兵隊ヲ誘惑シテ
内乱者ニ合セシタル者ハ軍律ニ依テ
処断ス
其他ノ方法ヲ以テ設備ノ所為ヲ為シタ
ル者ハ軽禁獄ニ処ス
第四条　二人以上前数条ニ記載シタル重
罪ヲ犯スノ陰謀ヲ決定シタル者ハ二年
ヨリ五年ニ至ル軽禁錮並ニ二円ヨリ百円
ニ至ル罰金ニ処ス
第五条　人ヲ指名シ又ハ指名スルニ非スト
雖モ虐殺シ又ハ官私ノ所有物ヲ破壊
劫掠スルノ目的ヲ以テ内乱ヲ起シタ
ル者ハ（内乱ヲ以テ論セス）通常ノ刑ニ
依テ処断ス

第六条　第一章第五条第六条ニ記載
シタル罪ヲ内乱ノ罪ト同時又ハ前後ニ
犯シタル時ハ第五条第六条ニ依テ処断
ス

第七条　内乱ヲ起ストキモ挑唆者ニ渉ス
又指揮ヲ為シタル者ニ渉ス又直チニ着
手スルニ渉ス又前第二条ニ記載シタル
所行ヲ為スヿナク自カラ解散シタル
者ハ本刑ヲ免シ五年ヨリ十年ニ至ル監
視ニ附ス

若シ直チニ着手シタル者ハ本刑ニ一等
ヲ減ス

挑唆者（及ヒ首謀）ト雖モ未タ着手ニ及
ズ且第二条ニ記載シタル所行ヲ為スヿ
ナク自カラ降伏シタル者モ本刑ニ一等
ヲ減ス

但シ以下入レ置ノヘキカ

第八條　公兵ヲ示令スル權アル官吏若シ内乱ノ挑唆者又ハ首ナル時ハ（五条六条ヲ除クカ）前数条ニ記載シタル刑ニ一等ヲ加フ但シ此加重ハ共犯附從ニ及ホスヿヲ得ス

第九条　内乱ヲ起スヿ前又ハ内乱ニ際シ内乱ノ目的及ヒ挙動ヲ知テ故ラニ聚會所又ハ隠匿所ヲ故ラニ給与シタル者ハ前数条ニ記載シタル重罪ヲ附從トナシテ處断ス

第十条　威力脅迫ヲ以テ立法及ヒ行政官ノ議事ノ會合ニ對シ又ハ各裁判所ニ對シ其會合議事ヲ妨ケ又ハ強テ議事ヲ為サシメタル者ハ軽禁獄ニ処ス

院省使府縣ノ長官ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル者モ亦同

第十一条　威力又ハ脅迫ヲ以テ国民ノ権ヲ行ヒ又ハ義務ヲ行フヲ妨ケタル者ハ一年ヨリ五年ニ至ル軽禁錮并ニ二円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

此條ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第四章

第一節　海賊ノ罪

第一条　内外国ノ舩舶ニ乗リ人ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ内外国ノ舩舶ヲ搶奪劫掠シテ海賊ヲ為シタル者ハ海賊ノ罪トナシ左ノ例ニ照シテ処断ス

一　其舩長及ヒ造意者（アマトールノ原語ハ発起人舩主荷主ト称スヘキ者仮リニ造意者トス）指揮役ハ無期徒刑

第十一条　威力又ハ脅迫ヲ以テ国民ノ権ヲ行ヒ又ハ義務ヲ行フヲ妨ケタル者ハ一年ヨリ五年ニ至ル軽禁錮并ニ二円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

此條ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第一節　海賊ノ罪

第一条　内外国ノ舩舶ニ乗リ人ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ内外国ノ舩舶ヲ掠奪劫掠シテ海賊ヲ為シタル者ハ海賊ノ罪トナシ左ノ例ニ照シテ処断ス

一　其舩長及ヒ造意者（アマトールル原語ハ発起人舩主荷主ト称スヘキ者依リニ造意者トス）指揮徒刑

二　其他ノ役員ハ軽徒刑

三　其他ノ乗組人ハ重懲役

舩舶並ニ舩舶ニ在ル所ノ物品ハ皆之ヲ没収ス

第二条　海賊ヲ為スニ因リ一人又ハ数人ヲ故殺シタル片現ニ其故殺ニ与ミシタル者及ヒ其命ヲ下シタル者並ニ此事ヲ禁止セサル舩長及ヒ指揮役ハ死刑其他ノ役員ハ重徒刑乗組人員ハ軽徒刑ニ処ス

第三条　（舩舶ノ安寧ヲ保護スルニ必用ナル性質ヲ帯ヒス又其部分ノ外国ノ軍器ヲ備ヘタル内外国ノ舩舶ニ乗タル者舩海免状又ハ政府ノ許可ナクシテ航海ヲ為シタル時ハ海賊ノ設備トナシ左ノ例ニ照シテ處

斷ス

一 其舩長及ヒ造意者指揮役ハ重懲役

二 其他ノ役員ハ輕懲役

三 其他ノ乗組人ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮二十四ヨリ五十四ニ至ル罰金ニ処ス

第四条 其企謀ノ目的及ヒ模様ヲ知テ造意者舩長ニ保險ヲ為シ又ハ舩舶並ニ資本金ヲ貸与シタル者ハ造意者舩長ノ附從トナシテ処断ス

第五条 外国海辺ニ非ス大洋ニ於テ海賊ノ衆ヲ招シタル者ハ法例第五条第七条ニ記載シタル条件ニ依ラス内国ニ於テ之ヲ公訴スルヿヲ得

第二節　黒奴賣買ノ罪

第一条　使用スル國ニ賣ル為メ黒奴ヲ其國ニ於テ買ヒ黒奴賣買ヲ為シタル内國人ハ外國ノ旗章ヲ掲ケ航海ヲ為スト雖モ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一　造意者并ニ船長及ヒ其役員ハ重懲役

二　其他乗組人員ハ軽懲役

司法省

「舩舶並ニ舩舶ニ在ル所ノ物品金額ハ
皆之ヲ没収ス」

第二条　黒奴ニ對シ惨酷ノ所遇ヲ為シ
因テ一人又ハ数人ヲ死ニ致シタル者若シ
殺スノ意ナキ時ハ左ノ例ニ照シテ処断
ス

一　役員ノ命令ヲ受ケ此罪ヲ犯シタル乗組
人員ハ重懲役

二　命令ヲ受ケスシテ犯シタル乗組人員及
ビ命令ヲ為シタル役員並ニ惨酷ノ所遇
ヲ為スヲ禁止セサル舩長ハ重懲役ノ長
期ニ処ス

第三条　故殺ヲナシタル件其命令ヲ受ケ
タル者ハ軽徒刑命令ヲ受ケスシテ
犯シタル者及ビ命令ヲ為シタル役員
並ニ故殺ヲ禁止セサル舩長ハ重徒刑

ニ処ス

第四条　内国人内国ノ港内又ハ外国ノ港内ニ於テ黒奴賣買ヲ為ス為ノ船舶ヲ艤装シテ航海ノ之度ヲ為シタル者ハ黒奴賣買ノ設備ト十シ左ノ例ニ照シテ処断ス

一　造意者及ヒ船長従員ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮七十円ヨリ七百円ニ至ル罰金ニ処ス

二　乗組人員及ヒ職工并ニ物件ノ供給者ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮二十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス

第五条　情ヲ知テ保険ヲ為シ又ハ船舶并ニ資本金ヲ給与シタル者ハ造意者船長ノ附従トナシテ処断ス

此一節ハ内国ニ在テ犯シタル外国人

第六条 黒奴賣買ノ用ニ供シタル船舶及ト乗載スル所ノ器械物品金額内國ニ於テ処断セラレタル犯人ノ所有ニ係ル時ハ皆之ヲ没収ス

ニモ通シテ用フヘシ

第六条 外國ニ於テ黒奴賣買ノ罪ヲ犯シタル内国人亦タ外国ニ於テ確定ノ裁判ヲ受ケサル時ハ且法例第五条ニ記載シタル公ノ告発其他ノ条件具備セスト雖モ内国ニ於テ公訴スルヲ得

第四章 國ノ静謐ヲ害スル重罪軽罪

第三節 往来通信ヲ妨害スル重罪軽罪

第一條 往来ノ自由ヲ妨害スルノ意ヲ以テ故ラニ道路橋梁ヲ損壞シタル者ハ二月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

第二條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ事務ヲ

妨ケ或ハ之ヲ止メタル者ハ前条ニ刑ニ處ス

但シ人ノ身体ニ暴行ヲ加ヘ又ハ文書ヲ毀損滅盡シタル時ハ重キニ從テ處断ス

第三條 故ラニ電信ノ柱木ヲ毀壊拔倒シ電信局ノ器械ヲ破壊シタル者ハ六月ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

若シ信線ノミヲ断チ其他通信ヲ妨ケタル者ハ前項ノ刑ニ二等ヲ減ス

第四条 汽車ノ進行ヲ錯ラシメ又ハ衝突セシメ又ハ其他ノ危害ヲ来サシムル為メ故ラニ鉄道又ハ其標識ヲ破壊シタル者ハ軽懲役ニ処ス

第五条 故意ヲ以テ舩舶ノ危害ヲ生セシムル目的ヲ以テ航海ノ安寧ヲ保護ス

ル為メ設ケタル燈臺浮標其他ノ物件ヲ
破壞シタル者ハ前条同刑ニ処ス
第六条　前五条ニ記載シタル罪ヲ道路郵便
電信鉄道航海ノ安寧ヲ保護スル官吏等ノ
犯シタル時ハ一等ヲ加フ（第一条第二条第三条ノ場合ニ於テハ四分二ヲ加重ス）
第七条　第四条第五条ニ記載シタル鉄道燈
臺浮標ヲ破壞シ因テ人ヲ殺傷シタル者
ハ豫メ謀テ人ヲ殺傷シタル刑ニ照シ重キ
ニ從テ処断ス
第八条　内乱ノ際前數条ノ罪ヲ犯スト雖モ
鎮静ノ処分ニ抵抗スルノ方法ニ出テザル
時ハ（ニ死ニ至ルトキハ）前数条ノ刑ニ処スルコトヲ得ス

第四節　公人ノ官吏職務ヲ行フヲ妨害スルノ罪

第一条　人ヲ指シ定メ法律規則又ハ行政司法官署ノ命ヲ執行スルニ当リ其官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル者ハ四月ヨリ四年ニ至ル重禁錮並ニ四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニス若シ左件ノ一個アル者ハ一個毎ニ一等ノ加

重ス

一 執行ニ関係ナキ者ト雖モ二人以上ニテ抗拒シタル者ハ一等ヲ加フ（四分ノ一ヲ加重ス）

二 犯人兇器ヲ持シタル時

第二条 暴行又ハ書面言語ヲ以テ脅迫ヲ為シ第三章第十条ニ記載シタル以外ノ官吏ノ一般ニ對シ行フ所ノ職務ヲ行フヲ妨ケ又ハ其官吏ノ欲セサル〔又ハ行フヘカラサル〕ヲ強テ行ハシメタル者ハ四月ヨリ四年ニ至ル軽禁錮並ニ四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ処ス

前条ニ記載シタル重キ狀アル者ハ一個アル毎ニ一等ヲ加重ス

此罪ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第三条 前二条ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷

シタン者殺傷ノ罪重キ時ハ重キニ從テ
処断ス
第四条　官吏ノ職務ヲ行フニ当リ又ハ職
務上ニ對シ体容又ハ言語ヲ以テ公然直
チニ不敬ヲ為シタン者ハ一月ヨリ六月
ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ十円ニ至ル
罰金ニ処ス
若シ此罪ヲ第三章第十条ニ記載シタ
ル官署ニ對シテ犯シタン時ハ本刑ニ
二等ヲ加フ

第四節　囚徒ノ逃亡其他囚人ヲシテ刑ヲ免カレシムル為メナシタル犯罪

第一條　逃亡ヲナス為メ有期已決ノ罪囚徒獄舍又ハ獄具運送馬車ヲ毀チタル時ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ處ス

第二條　逃亡ヲナス為メ人ニ對シ暴行脅迫ヲ用ヒタル時モ亦前条同刑ニ處ス但シ暴

行ニヨリ毀傷ヲ為シ更ラニ重キ刑ニ處スヘキ件ハ重キニ據テ處断ス

前一条二条ノ刑ハ前犯ノ刑期ヲ終リタル後直チニ之ヲ科ス但シ軽禁錮ハ此限ニアラス

第三條　禁獄ノ刑ヲ受ケ法例第三十一條ニ記載シタル許可ヲ得テ流地ニ移リタル者前一條二条ニ記載シタル方法ノ一個ヲ以テ逃亡ヲ為シタル時ハ前一條二條ノ刑ニ処ス但シ此犯人ハ後來法例第三十一條ノ便益ヲ与ヘス

第四條　前條ノ罪ヲ犯ス者ハ再逃以上ニ非レハ再犯ノ例ニ照シ加重スヘカラス

第五條　軽重徒流ニ処セラレタル者破壊暴行脅迫ヲ以テ逃亡ヲ為シタル時ハ六

月ヨリ二年ニ至ル時間一人一室ニ鎖ス既ニ
鎖室ニ処セラレシ者ハ此期ヲ加重ス
但再ヒ逃亡シタル時ハ長期二年ニ處
ス

第六條　未決ノ囚徒拘留中逃亡ヲナス為メ
第一條第二條ニ記載シタル法方ノ一個ヲ
用ヒタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮
ニ処ス

前犯ノ罪ノ審判終ルニ非レハ逃亡ノ罪ヲ
科スヘカラス若シ前犯無罪ニ帰スル時ハ
直チニ逃亡ノ罪ヲ科ス若シ有罪トナル時
ハ二罪俱発ノ例ニ照シテ処断ス

第七条　逃亡ヲ為スニ人ヲ殺傷シタル時ハ
第三編第五条第十五条ニ記載シタル逃亡
ヲ助ケ又ハ其刑ヲ免カレシムルノ目的ニ
テ殺傷シタル例ニ照シテ処断ス

第八条 三人以上ノ囚徒通謀シテ逃亡シタル者ハ前第一条第二条ニ記載スル刑ニ一等ヲ加フ

第六條

第九条 囚徒ニ逃亡ヲ為サシムル為メ器具又ハ兇器其他暴行ヲナス為メノ方法ヲ授ケシ者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ三円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ処ス

第七條

若シ囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第十條 前條ニ記載シタル者自カラ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ一年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

若シ左ニ記載スル三件ノ一個アル者ハ一個アル毎ニ一等ヲ加重ス

一　重罪ノ刑ニ處セラレシ者ナル時

二　兇器ヲ持シタル時

三　二人以上ニテ犯シタル時

以上暴行ニ依リ更ラニ重キ刑ニ處スヘキ時ハ重キニ據テ處斷ス

第十一條　囚徒ノ看守又ハ護送スル任アル者懈怠ニヨリ囚徒ヲ逃亡セシメタル時若シ其囚徒重罪ノ刑ニ處セラレシ者ナル時ハ五円ヨリ二十五円ニ至ル罰金ニ処シ若シ軽罪ノ刑ニ処セラレシ者又ハ重罪軽罪ニ論ナク未決ノ囚徒ナル時ハ四円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

第十二条　懈怠ニヨリ囚徒ヲシテ逃亡セシメタル看守又ハ護送者其囚徒更ラニ他ノ重罪軽罪ヲ犯スヲナクシテ一月内ニ其捕獲ヲ助ケシ時ハ前条ノ刑ヲ免ス

第十三条　看守又ハ護送者囚徒通謀シテ逃亡ヲ為サシメタル時ハ左ニ記載スル件々ニ照シテ処断ス

一　軽罪ノ刑ニ処セラレシ者又ハ未決ノ囚徒ナル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十五円ニ至ル罰金ニ処ス

二　重罪ノ刑ニ処セラレシ者ナル時ハ軽懲役ニ処ス

三　無期ノ刑ニ処セラレシ者ナル時ハ重懲役ニ処ス

第十四条　看守又ハ護送者獄舎ヲ破壊シ又ハ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ前数条ニ記載シタル刑ノ長期ニ処ス

若シ二人以上ニテ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ長期以上其半ニ至ル刑ニ処ス

第十五条　刑ニ処セラルヽヨリ公権ノ全部
又ハ幾部ヲ剝奪セラレ又ハ禁止セラレ
タル者其権ヲ行フタル時ハ二月ヨリ一
年ニ至ル軽禁錮並ニ二円ヨリ十円ニ至
ル罰金ニ処ス
但シ此刑ハ前犯ノ〔有期ノ〕刑ノ終ル後チニ
於テ之ヲ科ス
第十六条　法律ニ従ヒ警察官ノ監視ニ附
セラレシ者故ラニ其法律又規則ヲ以テ
命シタル義務ニ背キタル時ハ十五日ヨリ
六月ニ至ル重禁錮ニ処ス
第十七条　前第十五条第十六条ニ記載シ
タル者ハ再ヒ前二条ノ罪ヲ犯シタル時ニ
非レハ再犯ノ例ニ照シ加重スヘカラス
第十八条　逃亡シタル囚徒ト知リ故ラニ
隠匿所ヲ與ヘ又ハ逃避ヲ容易ナラシメ

タル者若シ其囚徒軽罪ノ刑ニ処セラレシ者又ハ未決ノ囚徒ナル時ハ十五日ヨリ三月ニ至ル重禁錮二回ヨリ十回ニ至ル罰金ニ処ス

若シ重罪ノ刑ニ処セラレシ者ナル時ハ一等ヲ加フ

若シ裁判所ニ訴ヘラレシ者ナル時ハ未決ノ囚徒ヲ隠匿シタル者ト同シク處断ス

第十九条　其隠匿シタル者其犯人ノ配偶者及ヒ宗系ノ尊属卑属ノ親及ヒ同級ノ姻属ノ親及ヒ兄弟姉妹伯叔父母甥姪ナル片ハ前条ニ記シタル刑ヲ免ス

第二十条　毒殺又ハ創傷殴撃ヲ受ケ又ハ其他軽重罪トナルヘキ原由ニ依リ死シタル若ノ死體ヲ掩蔽セシ者ハ二月

ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二十一条　此一節ニ記載シタル軽罪ノ仕損ニ及ヒ中止ハ法例ニ照シテ処断ス

第九節　禁制ノ兵器器械ヲ製造シ及ヒ輸入賣買又ハ所有スル罪

第一條　政府ノ任ヲ受ケス又許可ヲ得ス戰ニ用フル兵器彈薬其他ノ器械ヲ製造シ又ハ政府ニ於テ製造ノ權アル破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮五十円ヨリ二百円ニ至ル罰

金ニ処ス

若シ此物品ヲ許可ヲ得ス輸入シタル者モ亦同シ

第二條　前条ニ記載シタル物品ヲ賣買シタル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル重禁錮二十五円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス

第三條　禁制ノ兵器ヲ製造シ又ハ輸入シタル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル重禁錮二十五圓ヨリ百円ニ至ル罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル兵器ヲ賣買シタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮十圓ヨリ五十圓ニ至ル罰金ニ處ス

第四條　前數條ニ記載シタル物品ナルヿヲ知リ故ラニ製造輸入賣買ヲ為スト雖モ止タ職人又ハ乎代トシテ雇ヒヲ受ケ為シタル時ハ前數條ノ刑ニ二等ヲ減ス

第五條　前數條ニ記載シタル物品ヲ賣買スル為メニ秘スシテ所有シタル者ハ五圓ヨリ五十圓ニ至ル罰金ニ處ス

第六條　前數條ニ記載シタル物品並ニ其物品ヲ製造スルニ適当ナル器械ハ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス皆之ヲ没収ス

第七條　前數條ニ記載シタル軽罪ノ仕損シ及ヒ中止ハ法例ニ照シテ處

斷ス

司法省

第七節　匪徒結黨ノ罪

第一條　人ノ身体又ハ官私ノ財産ヲ害セントスル重罪輕罪ヲ犯スヿヲ目的ト為シ三人以上ノ匪徒常ニ黨ヲ結ヒタル者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

本刑ハ未タ目的ト為シタル重罪輕罪ヲ犯サス又着手セスト雖モ黨ヲ結ヒタル時

ニ於テ之ヲ科ス

挑唆者又ハ徒黨ヲ構成シタル者並ニ其首ハ本刑ノ長期ニ處ス

第二條　人ノ身体財産ニ對シ重罪軽罪ヲ犯シ其軽罪ノ刑ニ当ル者ハ各本条ニ照シニ等ヲ加フ若シ加ヘテ前　条ニ記載シタル結夥ノ罪ヨリ軽キ時ハ前条ニ依テ處断ス若シ有期重罪ノ刑ニ当ル者ハ各本刑ノ長期ニ處ス又其長期ノ半ニ至ルマテ加重スルヿヲ得

其挑唆者又ハ構成者及ヒ其首ハ其目的トスル所ノ軽重罪ヲ現ニ犯サスト雖モ各本条ニ照シ長期以上半ニ至ル刑ニ處ス

第三条　結夥ノ目的及ヒ性質ヲ知リ故ラニ其結夥シタル者ニ止宿所、隠匿所、又ハ集合所ヲ給與シタル者ハ其結夥シタル者ノ軽

重罪ヲ犯スニ其法才ノ重キ狀アルヿヲ
知ラスト雖モ其犯シタル軽重罪ノ附從ト
ナシテ處断ス

第八節　無産並ニ乞丐ノ罪

第一条　定タル住所及ヒ寄居スル所ナク平
常職業ヲ為サス又正当営生ノ方法ナク道
路園園及ヒ人民ノ集合スル場所又ハ寂寞
ノ地ニ於テ徘徊スル者ハ無産ノ罪トナシ
六月ヨリ二年ニ至ル時間警察官ノ監視ニ
附ス

夜間所有者ノ免シヲ得ス人ノ住シタル家

屋又ハ其家屋ニ繼續シタル所ニ入ル者ハ
監視ニ附スルノ外仍ホ十一日ヨリ一月ニ
至ル重禁錮ニ處ス
第二条　無産ノ者暗藏表携ノ兇器偽鑰破壞
（家屋等）スルニ用フル器具又ハ軽重罪ヲ犯ス
為メニ適当スル物件ヲ持シタル時ハ一月
ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ處ス仍ホ二年ヨ
リ五年ニ至ル監視ニ附ス

第三条　區邑又ハ無産ノ者ヲ引請ントスル
者ヨリ引渡ヲ求メ將来ノ行狀ヲ保証スル
者アル時ハ縣令ノ決定ヲ以テ前二条ニ記
載シタル刑ヲ止ムルヿヲ得
第四条　無産ノ者不相当ナル金額及ヒ金銀
寶石ヲ以テ製造シタル玩器又ハ價額アル
物件ヲ所持シタル原由ヲ証明ス
ルヿ能ハサル時ハ之ヲ假リニ官ニ加置シ

監視ノ期限ヲ経過シタル後ニ至リ他ヨリ
返還ヲ求ムル者ナキ時ハ之ヲ本犯ニ還附
ス

第五条　壮健ニシテ平常乞丐ヲ為ス者ハ十
五日ヨリ二月ニ至ル重禁錮ニ處ス尤件ヲ
以テ乞丐ヲ為ス者ハ二等ヲ加重ス
一罵詈恐嚇ヲ為シタル時
二兇器ヲ持シタル時
三創傷瘞罵疾ト詐称シタル時

第六条　老者瘞罵疾ニシテ職業ヲ為スヿ能
ハサル者地方官ノ免許ヲ受ケス又免許外
ノ地方ニ於テ乞丐ヲ為ス者ハ一月ヨリ三
月ニ至ル軽禁錮ニ處ス

司法省

第九節　封印ヲ破毀スル罪及ト官ニ屬スル物件ヲ窃取破壞滅盡スル罪

第一條　官署ノ命令及ト官署ノ処分ニ依リ門戸箱櫃其他ノ物件ニ為シタル封印ヲ破毀又ハ除棄シタル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル重禁錮五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

監守者自カラ此罪ヲ犯シタル時ハ六
月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ四十
円ニ至ル罰金ニ処ス
第二條　暴行ヲ用ヒス封印ヲ破毀シテ其
物件ノ全部又ハ一部ヲ窃取シタル者ハ
六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ四十
円ニ至ル罰金ニ処ス
カルベシヤ
監守者自カラ此罪ヲ犯シタル時ハ一年
ヨリ四年ニ至ル重禁錮二十円ヨリ五十円
ニ至ル罰金ニ處ス
前二項ニ記載シタル竊盗ヲ為スニ於テ
重キ狀情アル者ハ第三編第二章第一
節ニ記載シタル區別ニ從ヒ本刑ヲ加重
ス
若シ暴行ヲ用ヒテ犯シタル時ハ強盗ト
同シク論ス

第三條　若シ封印ヲ為シタル物件ヲ故ラ
ニ破壊シタル者ハ竊取シタルト同シク
處断ス
第四條　官署ヨリ封印スル所ノ輕重罪
ニ管スル書類ノ本書又証據物ヲ盜奪毀
壊シタル時ハ輕懲役ニ處ス若シ監守者
自ラ犯シタル時ハ重懲役ニ處ス
暴行ヲ用ヒタルニ依リ重キニ從ヒ處断
スヘキ時ハ重キニ依テ処断ス
第五條　若シ看守者ノ懈怠ニ係ル時
ハ左ノ件々ニ照シテ処断ス
一　封印ヲ破毀又ハ除棄シタル場合ニ
於テハ一月ヨリ三月ニ至ル軽禁錮
二回ヨリ十回ニ至ル罰金ニ処ス
二　封印ヲ為シタル物件ヲ窃取又ハ破
壊シタル場合ニ於テハ二月ヨリ六月

ニ至ル軽禁錮五円ヨリ二十円ニ至ル
罰金ニ處ス
三　軽重罪ニ當スル調書ノ本書又ハ証
拠物ヲ盗奪毀壊シタル場合ニ於テ
ハ三月ヨリ一年ニ至ル軽禁錮十円ヨ
リ四十円ニ至ル罰金ニ処ス
第六條　裁判所ノ書記局ニ收メ又ハ裁判
官ノ手ニ在ル軽重罪ニ當スル書類ノ本
書又ハ證據物ヲ故ラニ盗奪毀壊シタル
者ハ一年ヨリ三年ニ至ル重禁錮十圓ヨ
リ五十圓ニ至ル罰金ニ處ス
若シ書記及ヒ補其他裁判所ニ附屬シ
タル者此罪ヲ犯シタル時ハ二年ヨリ五
年ニ至ル重禁錮二十圓ヨリ百圓ニ至ル
罰金ニ處ス
若シ前項ニ記載シタル者ノ懈怠ニヨ

リ盗取又ハ毀壊セラレ又ハ遺失シタル時ハ一月ヨリ六月ニ至ル軽禁錮二圓ヨリ二十圓ニ至ル罰金ニ處ス

第七條　常人政府又ハ官署ニ屬スル前条ニ記載シタル以外ノ書類簿冊書籍又ハ金穀物件ニシテ書記局記録局又ハ官ノ藏書庫其他公ノ物品ヲ藏スル場所ニ於テ窃取シタル者ハ四月ヨリ二年ニ至ル重禁錮四円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

若シ書記官及ヒ記録官其他金穀物品ノ看守者又ハ其補助自カラ犯シタル時ハ八月ヨリ四年ニ至ル重禁錮八円ヨリ八十円ニ至ル罰金ニ処ス

前二項ニ記載シタル窃盗ヲ為スニ於テ重キ狀情アル者ハ窃盗ノ例ニ照シ本刑ヲ

加重ス

第八條　政府又ハ官署ニ屬スル動産不動産物件ヲ破壞滅盡シタル者ハ第三編第百六十條以下ニ記載シタル破壞滅尽ノ刑ニ照シテ処断ス但シ禁錮ノ短期罰金ノ寡数ヲ二倍ス

第九条　前二条ニ記載シタル場合ニ於テ書記官及ヒ記録官其他看守者ノ懈怠ニ係ル時ハ十五日ヨリ六月ニ至ル軽禁錮二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

第十條　前數條ニ記載シタル軽罪ノ仕損及ヒ中止ハ法例ニ照シテ處ス但シ看守者懈怠ノ罪ハ此限ニ非ス

第七節　當然行フヘキ公務又ハ法ニ適セシ求メヲ受ケタル公務ヲ拒ミシ罪

第一條　海陸軍ノ指揮官、士官、下士官行政及ヒ司法官署ヨリ法ニ適シタル求メヲ受ケ其求メニ應セサル時ハ一月ヨリ六月ニ至ル軽禁錮五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二條　醫師其他ノ者職務ニヨリ官署ヨリ
解剖監定又ハ檢査ヲ為スヿヲ命セラレ故
ナク肯ンセサル者ハ五円ヨリ五十円ニ至
ル罰金ニ処ス

第三條　獸醫獸類傳染病ノ流行スル時官署
ノ求メニヨリ受ケ故ナク此危害ヲ檢シ又ハ消
滅ノ方法ヲ陳述スルヿヲ肯セサル者モ前
條同刑ニ処ス

第四條　海陸軍徴兵ニ管スル法律ヲ犯シタ
ル者ハ其法律ニ依テ処断ス

第五章 公ノ信用ヲ害スル重罪軽罪

第一節 貨幣贋造ノ罪

第一條 内國ニ於テ當然通用スル所ノ内國又ハ外國ノ金銀貨幣ヲ贋造シテ使行シタル者ハ重徒刑ニ處ス

第二條 前條ニ記載シタル内外國ノ貨幣ヲ變造シテ銖銅ヲ減シ又價額ヲ増シテ使行シタル者ハ軽懲役ニ處ス

第三條 内國ニ於テ當然通用スル所ノ
モノニ非サル外國ノ金銀貨幣ヲ贋造
シテ使行シタル者ハ重懲役ニ處ス
前項ノ貨幣ヲ變造シテ使行シタル者ハ
二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮二十圓ヨリ
五十圓ニ至ル罰金ニ處ス
第四條 前數條ニ記載シタル贋造變造
ノ貨幣ヲ故ラニ内國ニ輸入シテ使行シタ
ル者贋造變造ノ犯人ト同シク必斷ス
第五條 内國又ハ外國政府ヨリ發行シタ
ル紙幣又ハ政府ノ許可ヲ得テ發行スル
貨幣ニ代用スル所ノ内外國ノ公ケノ銀
行紙券モ亦前四ケ條ニ記載シタル区別
ニ從ヒ其刑ニ處ス
第六條 内國ニ於テ當然通用スル所ノ銅
貨ヲ贋造シタハ外國ニ於テ贋造シタル

銅貨ヲ内國ニ輸入シテ使行シタル者ハ
軽懲役ニ処ス
第七条　贋造変造又其貨幣ヲ内國ニ輸入
シテ使行シ已レノ意外ノ景況ニ依リ遂
ケサル者ハ前六条ニ記載シタル刑ニ各
一ヲ減ス
若シ贋造変造又ハ輸入ヲ為サシメント
シテ遂ケサル者ハ各ニ半ヲ減ス

貨幣及ヒ紙幣紙券ヲ贋造スル為メ鋳形
及ヒ其他ノ器械ヲ製造シタル者ハ贋造
ノ設備トナシ三等ヲ減ス
第八條　貨幣紙幣ノ贋造変造ニ現ニ与ミ
スト雖モ止タ職工ノ名義ノミナル時ハ
前條ノ區別ニ從ヒ軽減シテ処断ス
第九條　贋造変造ヲ為ス所ノ職工ノ補助ヲミヲ
為シタル者ハ六月ヨリ四年ニ至ル重禁

錮五円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ處ス

第九条　貨幣紙幣ヲ贋造又ハ変造スル為メ其場所ヲ給与シタル者ハ前第七条ニ記載シタル区別ニ從ヒ其刑ニ右一等ヲ減ス

第十条　当然通用ノ金銀貨幣紙幣ノ贋造及ヒ其輸入ニ現ニ与ミセスト雖モ贋造タルヿヲ知リ故ラニ之ヲ使行シタル者ハ重懲役ニ處ス

其変造シタル金銀貨幣紙幣並ニ当然通用スル所ノモノニ非スシテ贋造シタル外國ノ金銀貨幣紙幣ニ係ル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル禁錮二十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

其贋造シタル銅貨並ニ当然通用スル所ノモノニ非スシテ変造シタル外國ノ金

銀貨幣紙幣ニ係ル時ハ一年ヨリ四年ニ
至ル重禁錮十円ヨリ四十円ニ至ル罰金
ニ處ス

第十三條　前條ニ記載シタル贋造及ヒ変
造ノ金銀貨幣紙幣又ハ銅貨タルヿヲ知
リ使行セントシテ遂ケサル者ハ各本罪
ノ一等又ハ二等ヲ減ス

第十四條　内國外國ノ貨幣又ハ紙幣ヲ贋
造若リハ変造又ハ輸入シタル正犯附從
未タ之ヲ使行セス且ツ公訴ノ初マラサ
ル前先ニ官署ニ自首シ自カラ捕ニ就キ
又ハ既ニ公訴ノ初マリシ後ト雖モ其重
立タル正犯附從ヲ捕獲スルヲ助ケ且ツ
贋造変造ノ貨幣ヲ押住スル助ケヲ為シ
タル者ハ本刑ヲ免ス但シ五年ヨリ十年
ニ至ル時間警察官ノ監視ニ附ス

第十三条　贋造又ハ変造タルヲ知ラスシテ
國外國ノ金銀貨幣又ハ貨幣ニ代用スル
紙幣ヲ受ケ贋造変造タルヲ知ルノ後之
ヲ使用シタル者ハ使用シタル貨額ノ二
倍ニ等シキ罰金ニ處ス但シ此罰金ハ二
回ヨリ下ルヲ得ス
本条ノ罪ノ仕損及ヒ中止ハ法例ニ照シ
テ処断ス

第十四条　贋造変造ノ貨幣紙幣並ニ贋造
変造ニ供用シタル器械ハ何人ノ所有タ
ルヲ問ハス皆之ヲ没収ス
贋造変造ノ貨幣紙幣ト交換シタル金額
物件若シ返還スヘキ被害者ノ知レサル
時モ亦同シ

第二節　国璽官印記號極印ノ贋造
及ヒ不正使用ノ罪

第一條　國璽ヲ贋造シテ不正ニ使用シ
タル者ハ重徒刑ニ處ス

院省使廳府縣各裁判所ノ印ヲ贋造
シテ不正ニ使用シタル者ハ軽徒刑ニ
處ス

其餘文書及ヒ産物商品ニ押スヘキ官

署ノ印記號極印ヲ贋造シテ不正ニ
使用シタル者ハ重懲役ニ処ス
第二條　官ヨリ發行スル所ノ各種ノ印
紙及ヒ郵便切手其他罰紙ヲ贋造シ
テ使行シタル者ハ軽懲役ニ処ス
第三條　前二條ニ記載シタル国璽官印
記号極印及ヒ各種ノ印紙郵便切手罰
紙ヲ贋造シテ未タ使用セサル者ハ各
一等ヲ減ス
贋造ニ與セスト雖モ其贋造タルヲ
知リ故ラニ之ヲ官私ノ文書ニ押シ不
正ニ使用シタル者モ亦同シ
贋造及ヒ其印ヲ押スヿニ與セスト雖
モ他人ノ既ニ押シタル文書ヲ不正ニ
使用シタル者ハ二等ヲ減ス
第四條　既ニ使用シタル所ノ各種ノ印

紙及ヒ郵便切手ヲ故ラニ再用シタル者ハ五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

第五條　不正ノ所為ヲ以テ真正ノ國璽官印及ヒ記号極印ヲ得之ヲ不正ニ使用シタル者ハ第三條第二項ニ從ヒ他人ノ贋造シタル印ヲ押用シタル者ト同シク處断ス

第七條　第五節ニ記載シタル往来手形其ニ其他ノ書類ニ係ル罪ハ前二条ノ刑ヲ適用スルコトヲ得ス

既ニ押シタル國璽官印及ヒ記号極印ヲ他ノ文書物件ニ移シテ用ヒタル者モ亦同シ

第六條　他人ノ不正ノ所為ヲ以テ國璽官印及ヒ記号極印ヲ押シタル處ノ文書ヲ不正ニ使用シタル者ハ其不正ノ所為ヲ以テ押ス所ノ者ニ一等ヲ減ス

第八條　國璽官印記号極印及ヒ各種ノ

印紙郵便切手罰紙ヲ贋造シタル者
自首シテ前第一節第十二条ニ記載
シタル所ノ方法ニ適フタル者ハ本罪
ヲ免シ五年ヨリ十年ニ至ル時間警
察官ノ監視ニ附ス

第九条　以上一節ニ記載シタル未遂犯罪
ハ法例ニ照シテ処断ス

第三節　官ノ書類公正ノ書類ヲ偽造
スル罪

二百四十六

第一條　官吏又ハ官署ヨリ出テタルモノト
シテ書類ヲ贋造シ不正ニ使用シタル者
ハ軽懲役ニ処ス

真正ノ官ノ書類ノ條件及ヒ日附姓名
ヲ変造シテ不正ニ使用シタル者モ亦同
シ

官ノ書類ヲ贋造及ヒ変造シテ未タ使
用セサル者ハ減シテ軽罪トナシ二年
ヨリ五年ニ至ル重禁錮二十四ヨリ五十
四ニ至ル罰金ニ処ス

第二条　贋造変造ニ與セスト雖モ其昏
類ヲ不正ニ使用シタル者ハ前条第三項
ニ依テ処断ス

第三条　官吏職務ニ属スル事件ヲ記
ニ管スル事件ヲ記スヘキ書類ノ本書
ヲ記スルニ当リ故ラニ事実日附及ヒ
姓名ヲ変シ又ハ眞正ノ事ヲ不正ニ記
シ又ハ眞正ノ事ヲ記セス書類ヲ
贋造シ不正ニ使用シタル者ハ重懲
役ニ處ス其贋造シタル書類ヲ未ト使
用セサル時ハ軽懲役ニ處ス
既ニ記シタル正当ノ書類ノ條件ヲ削

除増補変更シタル時ハ使用シタルト
否トヲ別チ前項ノ刑ニ處ス

第四條　官吏書類ノ贋造変造ニ與セ
スト雖モ其書類ヲ職務ヲ行フニ当
リ不正ニ使用シタル者ハ軽懲役ニ
處ス

第五條　官吏ノ書類ヲ贋造変造スル
ニ與セサル吏ノ者其書類ヲ不正ニ使
用シタル時ハ第二条ニ照シテ処断ス

第六条　此一節ニ記載シタル軽罪ノ未遂
犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第七条　前數条ニ記載シタル犯人贋造
及ヒ真正ノ國璽官印等ヲ不正ニ使
用シタル罪重キ時ハ重キニ從テ処断
ス

第四節（商法民法ニ管スル）私書

偽

贋造ノ罪

第一條　為替手形其他裏書ヲ用ヲ譲與シ又ハ何人ニ限ラス拂渡ヲ為スヿヲ得ヘキ商用手形ヲ贋造シタル者ハ軽懲役ニ處ス

真正ノ為替手形又ハ商用手形ニ記載シタル場所日付姓名金額及ヒ其他ノ條件ヲ變更シタル者モ亦同シ

司法省

第二條　其他讓與義務金額又ハ物件ノ釋放
証書ヲ管スル商事民事ノ書類ヲ前条ニ記
載シタル方法ノ一ヲ以テ贋造及ヒ變造シ
テ不正ニ使用シタル者ハ一年ヨリ五年ニ
至ル重禁錮十圓ヨリ五十圓ニ至ル罰金ニ
處ス
第三條　前二條ニ記載シタル以外ノ私書ヲ
贋造變造シタル者ハ一月ヨリ一年ニ至ル
重禁錮二円ヨリ十円ニ至ル罰金ニ處ス
第四條　前三条ニ記載シタル書類ヲ贋造変
造シテ夫々不正ニ使用セサル者ハ各本刑
ニ一等ヲ減ス
其贋造変造ニ與ミセスト雖モ情ヲ知リ其
証書ヲ不正ニ使用シタル者モ亦同シ
第五條　此一節ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯
罪ハ法例ニ照シテ處断ス

第五節　往来手形、免状、請合状ヲ偽造スル罪

第一條　往来手形猟免状、滞留免状其他権利ヲ行フニ必要ナル官署ノ書類ヲ官署又ハ官吏ヨリ出タル者トシテ偽造シテ不正ニ使用シタル者ハ一月ヨリ一年ニ至ル重禁錮四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ處ス

第二條　姓名身分屬籍名義（官名職業等ヲ謂フ）

ヲ詐称シ官ヨリ往来手形獵免状其他ノ免状ヲ受取リタル者ハ十五日ヨリ六月ニ至ル重禁錮二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

姓名及ビ身分ヲ詐称スルヿヲ知リ故ラニ其証人ト為リタル者モ亦同シ

第三條　前款條ニ記載シタル免状ヲ渡スノ任アル官吏法律規則ニ記載シタル式ニ從ヒ其願人ノ姓名身分屬籍名義ヲ証セシメスシテ之ヲ渡シタル者ハ懈怠ノ罪アリトシテ五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

官吏通謀シテ免状ヲ渡シタル者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ處ス

第四条　陸海ノ兵士又ハ警察官ノ監視ニ附シタル者其他巡廻旅行スルニ官署ノ監督ヲ受クヘキ者ニ渡シタル路程ヲ定メタル路券ヲ偽造シタル者ハ前数条ニ記載シタル者ニ一才ヲ減ス

第五条　自カラ公役ヲ免カレ又他人ヲシテ免カレシムル為メ内外科ノ医師ノ偽名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ自カラ之ヲ使用又ハ他人ヲシテ使用セシメタル者ハ一月ヨリ一年ニ至ル重禁錮三円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ処ス

第六条　若シ内外科ノ医師其作偽ノ証書ヲ渡シタル時ハ一等ヲ加フ

第七条　若シ海陸軍ノ兵役ヲ免カルヘ

キノ証書ニ係ル時ハ前二条ニ記載シ
タル刑ニ二等ヲ加フ
公役ヲ免カレントスルノ目的ニテ自
カラ奏篤疾又ハ不具ニナリタル者
モ亦同シ
第八条　自己ノ為メ又他人ノ為メ官署
又ハ人民ヨリ利益及ヒ救助ヲ得ル為メ
官吏又ハ人民ノ名ヲ用ヒ才能行状
及ヒ窮乏ノ証券ヲ偽造シテ之ヲ不
正ニ使用シタル者ハ十一日ヨリ二月
ニ至ル重禁錮ニ円ヨリ十円ニ至ル罰
金ニ処ス
若シ官吏其職務ヲ行フニ当リ前項
ノ証券ヲ偽造シタル時ハ本刑ニ二等
ヲ加フ
第九条　真正ノ証書又ハ他人ニ属スル

証書ノ條件ヲ変更シタル者ハ第一条
第四条第五条第七条ニ記載シタル
偽造ト同シク論ス
第十条 其偽造変造ノ証書ヲ未タ使
用セサル者ハ偽造正犯ノ刑ニ一等ヲ
減ス
第十一条 其偽造変造ニ與スルヿナシト
雖モ之ヲ不正ニ使用シタル者モ亦一等
ヲ減ス
第十二条 此一節ニ記載シタル未遂犯
罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第六節　偽証及ヒ偽監定ノ罪

第一條　凡問若クハ公判ニ論ナク刑事裁判所ニ於テ証拠ヲ陳述スル為メ呼出サレシ者被告人ヲ曲庇スル為メ故ラニ不實ノ事ヲ實ト為シ又誠實ナルコヲ謂ハス(又ハ其他ノ方法ヲ以テ)偽証ヲ為シタル者ハ左ノ例ニ照シテ処断ス

一　本犯違警罪ニ係ル時ハ違警罪ノ拘留罰金ニ處ス

二　本犯輕罪ニ係ル時ハ二月ヨリ一年ニ至ル重禁錮五圓ヨリ二十圓ニ至ル罰金ニ處ス

三　本犯重罪ニ係ル時ハ四月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十圓ヨリ四十圓ニ至ル罰金ニ處ス

第二條　他人ヲ害スル為メノ偽証ニ非スシテ配偶者、尊屬卑屬ノ親兄弟姉妹伯叔父姑及ヒ姪甥ヲ曲庇スル為メ偽証ヲ為シタル者ハ其罪ヲ論セス

第三條　被告人ヲ害スル為メ偽証ヲ為シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處

断ス

一偽証ノ件違警罪ニ係ル時ハ一月ヨリ三月ニ至ル重禁錮二円ヨリ十円ニ至ル罰金ニ處ス

二其軽罪ニ係ル時ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ處ス

三其重罪ニ係ル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮四十円ヨリ千百円ニ至ル罰金処ス

第四条 被告人偽証ノ為メ前条ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ重キ軽重罪ノ刑ニ処セラレシ刑期満限ノ後無罪ノ証発覚シタル時ハ偽証人ヲ其受決ノ刑ニ反坐ス

○然レトモ死刑ハ故ラニ被告人ヲ死

刑ニ陷ルノ目的ヲ以テ偽訴ヲ為シタル訴アルニ非レハ死刑ニ反坐スルヿヲ得ス

但シ其訴ナキ者ハ重徒刑ニ処ス

第五条　偽訴ニ因リ処決ヲ経タルモノ刑期中ニ無罪ノ訴発覚シタル時若キ其刑第三条ニ記載シタル偽訴ノ刑ヨリ重キ時ハ受決ノ刑ニ反坐ス但シ其刑期ハ被告人ノ受ケタル刑期ニ過ルヿヲ得ス

第六条　民事商事行政裁判ニ於テ偽訴ヲ為シタル者ハ左ノ例ニ照シテ処断ス

一　其控訴ヲ為シ得ヘキ事件ニ係ル件ハ二月ヨリ六月ニ至ル重禁錮五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処

ス

二　其控訴ヲ為スヿヲ得サル事件ニ

係ルトキハ前項ノ刑ニ二等ヲ加フ

第七条　裁判所ニ於テ監定通弁ヲ為

スヘキ為メ呼出サレシ者ニモ前数

条刑ヲ通用ス

第八条　如何ナル事件ヲ問ハス偽証ヲ

為シタル事ノ確定ノ裁判ヲ受ケテ

ル前解訴スル偽証人監定通辯者ハ

其罪ヲ免ス

前項ニ記載シタル者相当ノ時間控訴

裁判所ニ解訴ヲ為シタル時モ亦同

シ

第九条　若シ証人監定人ヲシテ偽証

偽監定ヲ為サシメタル者モ亦偽証人

偽監定人ト同ク論ス

偽証偽監定ヲ為サシメントシテ成ラサル未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第七節　尺度量衡ヲ贋造スルノ罪

第一条　規則ヲ以テ定メタル所ノ尺度量衡ヲ贋造（増）減シ贋造又ハ変造シテ販賣シタル者ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

但シ官ノ極印記号ヲ贋造又ハ盗用シタル者ハ重キニ従テ処断ス

第二条　贋造変造ノ尺度量衡ヲ未タ販売セ

サル者ハ一ボヲ減ス

偽

贋造変造ニ付セスト雖モ之ヲ知テ販売シタル者モ亦同

一等減ス

第三条　此一節ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

偽

第四条　贋造変造ノ尺度量衡ナルヿヲ知テ所有スル者ハ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

十日以上十月以下

偽

但シ贋造変造ノ尺度量衡ヲ不正ニ使用シテ已レヲ利シタル時ハ第三編第百二十九條ニ記載シタル詐偽取財ノ例ニ依テ処断ス

第八節　官服紀章身分勲章ヲ僭用詐称

第一条　官服及ヒ官ノ紀章内外国ノ勲章ヲ帯フルノ権ナキ者公然トソヲ帯ヒタル時ハ十五日ヨリ二月ニ至ル拘禁錮ニ処ス

二十九

五十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二条　官署ニ於テ文書ヲ紀スルニ當リ姓名郷貫職業又ハ官名尊称ヲ詐称シタル者

ロトスル文ヲ以テ

ニ由ケラナスニ

第二節　廃止

ハ二円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

第三条　前二条ニ記載シタル所為ヲ為シ因テ當然得ヘカラサル金額物件ヲ得タル者ハ第三編第百二十九条ニ依テ処断ス

第九節　公撰ノ投票ヲ偽造スル罪

第一条　公撰ノ投票ヲ偽造シ又ハ其数ヲ増減シタル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル軽禁錮五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

此犯人ハ一年ヨリ五年ニ至ル時間公権及ヒ政権ヲ行フヲ禁ス

第二条　投票ヲ検査シ又ハ計算スヘキ任アル者故ラニ偽造又ハ増減シタル

時ハ公権剥奪ニ十円ヨリ百円ニ至ル
罰金ニ処ス

第三条　官吏職務ヲ行フニ当リ前条ニ
記載シタル偽造ノ罪ヲ犯シタル者ハ軽
禁獄並ニ二十円ヨリ二百ニ至ル罰金ニ処
ス

第六章　公ノ健康ヲ害スル輕重罪

第一節　阿片烟ノ輸入及ヒ賣買使
用ノ罪

第一條　阿片烟ヲ内國ニ輸入シ又ハ製造シ
又ハ販賣シタル者ハ重徒刑ニ處ス

稅関ノ官吏職務ヲ行フニ当リ故ラニ阿片
烟ノ輸入ヲ容易ナラシメタル者ハ重禁獄
與ヲスト雖モ前同刑ニ處ス

船舶ノ長又ハ運送受負人此罪ヲ犯シタル
時ハ賣買ニ與ル者ハ輕徒刑ニ處ス
第二條　阿片烟ヲ吸フ為メニ的当ナル器械
ヲ内國ニ輸入シ又ハ製造シ又ハ販賣シタル
者ハ重懲役ニ處ス
第三條　阿片烟又ハ之ヲ吸フ為メニ的当ナ
ル器械ヲ輸入シ又ハ製造シテ未タ販賣セ
サル者ハ前二條ニ記載シタル刑ニ各一等
ヲ減ス
阿片烟又ハ其器械ノ輸入又ハ製造ニ與セ
スト雖モ之ヲ内國ニ於テ販賣シタル者モ
亦同シ
第四條　阿片烟ヲ所有スル者之ヲ人ニ與ヘ
吸食セシメル時ハ輕懲役ニ處ス
此罪ヲ犯シタル者製造者又ハ内國ニ輸入
シタル者ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第五條　自己ノ利ヲ圖リ阿片烟ヲ吸フ為メ
ニ家屋ヲ給與シタル者ハ重懲役ニ處ス
此罪ヲ犯シタル者若シ製造者又ハ輸入者
ニ係ル時ハ軽徒刑ニ處ス
第六條　現ニ阿片ヲ吸食スル者又ハ阿片ニ
酔迷シタル者ハ二年ヨリ五年ニ至ル重
禁錮二十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス
第七條　阿片烟又ハ吸フ為メニ的当ナル器
械ヲ所有スル者ハ一月ヨリ一年ニ至ル重
禁錮二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス
第八条　内國ノ港内ニ一時碇泊中上陸シテ
阿片ヲ吸ヒ器械ヲ携帯シタル者ハ地方警
察官吏ヨリ本船ニ遂還ス其地方警察官吏
又ハ船長ノ検査ヲ受クルニ非レハ再ヒ上
陸スルヿヲ聽サス
若シ碇泊中再ヒ犯シタル者ハ本船出帆ノ

日ニ至ル迫繫獄ス

第六章

## 第二節　公ケノ淨水ヲ腐敗ヤシムル

ノ罪

第一條　故ラニ害ヲ加フルノ意ニテ飲料供スル水道噴水井戸水溜メヲ腐敗セシメ一日以上其水ヲ用フル丁能ハサラシムルニ至ラシメタルモノハ未タ人ヲ害ヤスト雖モ十五日ヨリ二月ニ至ル重禁錮二回ヨリ十四ニ至ル罰金ニ処ス

第二条　人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒ水質ヲ変ヒ又ハ腐敗セシメタル者ハ二月ヨリ一年ニ至ル重禁錮五回ヨリ二十回ニ至ル罰金ニ処ス

第三条　前二條ニ記載シタル未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第四条　水質ヲ変シ又ハ腐敗セシメタルニ因リ一人若クハ数人病ヲ受ケシメ又ハ殺スノ意ナクシテ死ニ致ラシメタル者ハ第三編第十三条ノ例ニ照シテ重キニ従テ処断ス

若シ殺スノ意アル時ハ毒殺トナシ既ニ遂ケタルトキハ遂ケサルトキハ区別シテ処断ス

司法省

## 第三節　傳染病豫防規則ニ背クノ罪

第一条　傳染病流行ノ疑ヒアル内外國ノ地方ヨリ入港シタル船舶上陸又ハ商品ノ陸揚ヲ一時禁シタル規則ニ背キタル者ハ二月ヨリ二年ニ至ル軽禁錮二十円ヨリ二百円ニ至ル罰金ニ処ス

第二条　船長士官自カラ此規則ニ背キ又ハ懈怠ニヨリ管轄スル所ノ者ヲシテ規則ヲ背クニ致ラシメタル時ハ各一等ヲ加重ス

此規則ヲ特別ニ監察スル官吏懈怠ノ罪アル時モ亦同シ

第三条　獣類傳染病ノ流行スル際所有者又ハ看守人牛馬其他大小ノ獣類ノ傳染病ヲ受ケタルヿヲ視察シ直チニ之ヲ地方警察官吏ニ申告セサル時ハ十一日ヨリ二月ニ至ル軽禁錮二日ヨリ二十日ニ至ル罰金ニ處ス

第四條　地方官ヨリ獣類ノ傳染病ヲ豫防スル規則ヲ布達シタル後所有者看守人規則ニ背キタル時ハ一月ヨリ六月ニ至ル軽禁錮五日ヨリ五十日ニ至ル罰金ニ處ス

第五條　他人ニ屬スル獸類ノ看守人規則ニ
背キタル所為ヲ為シ又ハ規則ニ定メタル
事ヲ為サヽル時其所有者ノ命令ニ出テタ
ル証ヲ立ル時ハ其罪ヲ論セス命ヲ下シタ
ル所有者ヲ前條ノ刑ニ處ス

第六章

第四節　害トナルヘキ飲食物ヲ販
賣スル罪

第一条　健康ノ害トナルヘキ物質ナルヿ
ヲ知リ故ラニ之ヲ加ヘ又ハ混合シタル
飲食ヲ供スル物品ヲ販賣シタル者
ハ買取ル人者其混合シタルヿヲ承諾
スト雖モ十五日ヨリ二月ニ至ル重禁
錮二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

前項ノ罪ハ本刑ノ外仍ホ其裁判宣告書ヲ地方新聞紙上ニ登記シ且其宣告書ヲ貼出ス其費用ハ犯人ヲシテ之ヲ償ハシム

第二条　前条ノ罪ヲ犯シ人ニ損傷ヲ加ヘタル時ハ左ノ例ニ照シテ処断ス

一　疾病ヲ生シタル時ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮

罰金ニ處ス

二　死ニ致シタル時ハ二月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス

第三条　薬舗毒質ノ物品ヲ賣買スルニ付キ定メ又ハ將来定ムル所ノ特別ノ規則ニ背キテ之ヲ販賣シタル時ハ十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

第四条　前条ニ記載シタル物品ノ賣買ヲ許サレサル者其物品ヲ販賣シタル時ハ十一日ヨリ二月ニ至ル輕禁錮十四ヨリ五十四ニ至ル罰金ニ処ス

第五条　公ノ健康ヲ保ツ為メ規則ヲ以テ賣買ヲ禁シ又ハ禁スヘキ所ノ食用物品ヲ販賣シ又ハ展視シタル者ハ前条ニ記載シタル刑ニ依テ処断ス

第六条　前条ニ記載シタル物品ヲ不正ニ販賣シ因テ人ニ損傷ヲ加ヘタル時ハ懈怠ニヨリ人ヲ殺傷シタル刑ニ依テ処断ス

謝料ヲ受ケト雖モ

第六章

第五節　不正ニ醫術ヲ行フタル罪

第一条　規則ヲ以テ定メタル免許ヲ受ケスシテ平常醫術ヲ行ヒ又ハ分娩ヲ為サシメタル者ハ十一日ヨリ三月ニ至ル輕禁錮又ハ五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二條　因テ人ニ損傷ヲ蒙ラシメタル時ハ過失殺傷ノ例ニ照シテ重キニ從テ處断ス但シ罰金ハ重ニ從フ

第七章　一般ノ風俗ヲ害シ及ヒ教
法ニ對スル不敬ノ罪

第一条　故ラニ公ケノ場所ニ於テ猥褻
ノ所業ヲ為シタル者ハ十月ヨリ六月
ニ至ル重禁錮五四ヨリ三十四ニ至ル罰
金ニ処ス

第二条　風俗ヲ害スル書籍畫圖玩物其
他ノ物品ヲ公然陳視シ又ハ販賣シタ

司法省

ル者ハ十五日ヨリ三月ニ至ル重禁錮
十四ヨリ五十四ニ至ル罰金ニ処ス
前項ニ記載シタル物品ヲ賃貸(ヤリ)又ハ密賣シタル者ハ十四ヨリ五十四ニ
至ル罰金ニ処ス
第三条　自己ノ利ヲ圖リ家屋又ハ公
ケノ場所ニ於テ賭博ヲ為サシメタル
者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮十
圓ヨリ百圓ニ至ル罰金ニ處ス
第四條　前條ニ記載シタル場所ニ於テ
現ニ賭博ヲ為ス者ハ十五日ヨリ三月ニ
至ル重禁錮十四ヨリ五十四ニ至ル罰
金ニ處ス
賭博ニ用ヒタル賍物ハ没収ス
第五條　此罪ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シ
テ處断ス

司法省

第六條　現ニ飲食物ヲ賭シ又ハ戯ニ賭博ヲ為シタル者ハ前條ノ刑ヲ科セス

第七條　官ノ許可ヲ得スシテ公ケニ富ミヲ興行シ又ハ興行ニ与シタル者其官許ヲ得スシテ又ハ公私ノ賑救ヲ為スヲ目的ニ出テサル時ハ前第三條第四条ニ記載シタル刑ニ依テ処断ス

第八條　内國ニ於テ認許シタル神社佛閣ニ於テ公然ト不敬ヲ加ヘタル者ハ十一日ヨリ二月ニ至ル軽禁錮二円ヨリ十円ニ至ル罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル教徒ノ説教ヲ妨害シタル者ハ一月ヨリ三月ニ至ル軽禁錮五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

若シ教人ニシテ前二項ノ罪ヲ犯シタル時又ハ他宗ノ教徒の犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第八章　商業製造又ハ農業ノ自由ヲ害スル罪

第一條　人民ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ穀類其他一般ノ使用ニ欠クヘカラサル食用物品及ヒ膏油薪炭木材ノ陸揚ヶ舩積運送賣買ヲ妨ケタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮五円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二条　前項ノ罪ヲ犯スニ詐リ穀類其他ノ物品ヲ破壊滅尽シタル者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス但シ強盗ノ所為アル時ハ強盗律ニ依テ処断ス

第三条　公ケノ動産、不動産ノ糶賣工事其他請負ノ入札ヲ為スニ詐リ暴行又ハ書面言語ヲ以テ脅迫ヲ為シ糶賣入札ノ自由ヲ妨ケタル者ハ八十五日ヨリ三月ニ至ル重禁錮十円ヨリ六十円ニ至ル罰金ニ処ス

若シ糶賣入札ヲ為ス事件政府又ハ官署ニ属スル時ハ十日ヨリ六月ニ至ル重禁錮二十円ヨリ二百円ニ至ル罰金ニ処ス

第四条　職人及ヒ其長製造所ノ長雇

賃ヲ増サシメン為メ又ハ製造商業ノ
模様ヲ変ンセシメントスル目的ヲ以テ
他ノ職人又ハ其主ニ対シ暴行脅迫ヲ用
ヒテ一箇若クハ数箇ノ製造所ノ工作ヲ
妨ケタル時ハ十一日ヨリ二月ニ至ル重
禁錮二円ヨリ五円ニ至ル罰金ニ処ス
第五条　商業及ヒ製造所ノ主人発起
人雇賃ヲ減セシメントスル為メ又ハ工
作ノ模様ヲ変セシメントスル目的ヲ以
テ職人及ヒ他ノ製造所ノ主人又ハ発
起人ニ対シ暴行脅迫ヲ用ヒ工作ヲ妨
ケタル時ハ十五日ヨリ三月ニ至ル重
禁錮十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス
第六条　前数条ノ罪ヲ犯スニ於テ左ノ
件々アル者ハ一箇毎ニ一等ヲ加フ
一　三人以上ニテ犯シタル時

二　兇器ヲ持シタル人時

第七条　三人以上通謀シテ虚偽ノ風説ヲ為シ又ハ其他ノ偽計ヲ用ヒテ第一条ニ記載シタル食用物品ノ價ヲ高低セシメタル者ハ十五日ヨリ二月ニ至ル重禁錮二十円ヨリ五百円ニ至ル罰金ニ処ス

第八条　此一章ニ記載シタル未遂犯ハ法例ニ照シテ処断ス

又他人ヲシテ之ヲ施行セシメス

第九章　官吏職務ヲ行フニ当リ犯シタル罪

第一節　官吏公益ヲ害スル罪

第一款　官吏ノ通謀

第一条　等級ノ如何ヲ問ハス官吏以上ノ官吏通謀シテ自己ノ職務タル官署ノ法律規則ノ施行ヲ妨ケ又ハ他ノ官吏ヲシテ妨ケシメタル時ハ二月ヨリ六月ニ至ル軽禁錮

二十四ヨリ六十四ニ至ル罰金ニ処ス

若シ官兵ノ士官及ヒ指揮官ト通謀シタ時ハ各一等ヲ加フ

第二条　二人以上ノ官吏辞職ヲ通謀シテ公務ノ成就ヲ妨ケタル時ハ一月ヨリ三月ニ至ル軽禁錮十四ヨリ三十四ニ至ル罰金ニ処ス

第二款　擅権ノ罪

第三条　出兵ヲ求メ又ハ使用スル権アル官吏出兵ヲ求メ又ハ之ヲ使用シテ法律規則行政官署ノ処分又ハ司法官署ノ決行其他ノ官署ノ命令ヲ施行スルヲ妨ケタル時ハ軽禁獄ニ処ス

出兵使用ノ命ヲ停ヘ又ハ之ヲ施行シタル者其命令本属長官ノ職務相当ノ事件ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

若シ本属長官ノ職務相当事件ニ非サル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル軽禁錮五円ヨリ二十五円ニ至ル罰金ニ処ス

第三款　権限ヲ侵スノ罪

第四条　官吏立法官又ハ政府ノ権内ニアルヿヲ知リ一般又ハ一地方ニ係ル布達又ハ規則ヲ立テ立法権又ハ政府ノ規則ヲ立ルノ権ヲ侵シタル時ハ一年ヨリ五年ニ至ル軽禁錮十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

第五条　行政司法ノ官吏又ハ軍務官吏各已レノ権内ニ非サルヿヲ知リ互ニ権限ヲ侵シタル時ハ三月ヨリ二年ニ至ル軽禁錮三円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ処ス

第四款　任ナクシテ不正ニ其職務ヲ行フタル罪

第六条　官吏其職ヲ黜ケラレ又ハ停メラレ

後其職務ヲ止メシメ仍ホ正当官吏ノ
名義ヲ以テ其職務ヲ行フタル者ハ一月ヨ
リ六月ニ至ル軽禁錮五日ヨリ二十日ニ至
ル罰金ニ処ス
辞職又ハ定期間ノ職務ヲ終リシ後前項ノ
罪ヲ犯シタル者モ亦同シ
第五款　官吏禁セラレタル商業ヲ
為シタル罪

第七条　府県ノ官吏城塞及ヒ各港戍兵ノ指
揮官陸海軍鎮所ノ指揮官其職務ヲ管轄内
ニ於テ自己ノ姓名又ハ無實ノ姓名又ハ他
人ノ姓名ヲ以テ穀物生糸蠶卵紙膏油薪炭
木材ノ賣買ヲシタル時ハ百円ヨリ千円ニ
至ル罰金ニ處ス
但シ此罪ト官吏ニ對シ別ニ定メタル所ノ
規則ト相抵觸スル丁勿レ

其管轄内ニ於テ賣買ヲ為スト雖モ自己ノ所有地ニ生スル物品ニ係ル時ハ前項ノ刑ヲ科スルノ限ニアラス

職務上ノ事ヲ

十九章

第二節　人民ニ對シタル罪

第一款　權ヲ擅ニシテ阻撓ノ行ヲ為シタル罪

第一條　官吏悪意ヲ以テ擅ニ國民ヲシテ為サシムルノ權ナキヿヲ為サシメ又ハ不正ニ國民ノ權ノ行フヲ妨ケタル時ハ十一日ヨリ二月ニ至ル軽禁錮ニ五円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ處ス

但シ次第ニ記載シタル聚歛ノ罪アル時
其罪ノ重キ時ハ重キニ従テ處断ス

第二條　官吏現行犯罪ヲ除クノ外法
律ニ記載シタル式及ヒ権限ノ規則ヲ
守ラスシテ人ヲ逮捕シ又ハ逮捕セシメ
タル時ハ十月ヨリ三月ニ至ル重禁錮
十円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

第三條　逮捕シタル者ヲ官吏ノ所為又
ハ懈怠ニヨリ不正ニ拘置シタル時ハ法ニ
背キ人ヲ逮捕シ及ヒ監禁シタル例ニ照
シテ一等ヲ加フ

第四條　獄長獄卒ト決囚人ヲ係ル時式
ニ従フタル裁判書未決ニ係ル時相当
ノ官署ノ命令書ヲ検視セスシテ領取
拘置シタル時ハ檀ニ人ヲ監禁シタル
罪トナシ前條ニ記載シタル例ニ照シテ

処断ス

第五條　獄長獄卒犯ニ係ルヲ以テ逮捕
レタル者ト雖モ公兵又ハ官吏ノ護送
スルニ非レハ之ヲ領取拘置スルヿヲ得
ス若シ領受シテ二十四時間ニ法ニ適シ
タル見認ヲ受ケサル時ハ其地ノ區裁
判官若シ紀問判事ノ近キ地方ニ在ル
時ハ其判事ニ其囚人ヲ護送スヘシ若

シ此規則ニ背ク時ハ前條ヲ同シク處
断ス

第六條　獄舎又ハ懲戒所ノ獄長獄卒
囚人ヲ領取シタル時ハ遅延ナク簿冊
ニ各囚ノ入獄ノ時日及ヒ交付セラレシ
書面ニ從ヒ姓名囚獄スル所ノ原由ヲ
記載スヘシ若シ交付セラレシ書面全
備セス又ハ現行犯罪ニ係ル時ハ囚人

容貌ヲ記載スヘシ出獄ノ時ニ於テモ
入獄同様ノ規則ニ従ヒ記載スヘシ此
規則ヲ守ラサル獄長獄卒ハ十円ヨ
リ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

第七條　行政又ハ司法ノ官吏獄舍又ハ
私舍ニ人ヲ擅ニ監禁シタルヿヲ知リ
遲延ナク之ヲ中告シ其禁錮ヲ解放セシ
又ハ相当ノ官吏ニ報告スルヿヲ肯
セス又ハ怠リタル時ハ第三條ノ記載
シタル刑ニ依テ處斷ス但シ一等ヲ加重
スルノ限ニアラス

私舍ニ拘留セラレシヿヲ官吏ニ報告
シタル後凌虐ノ所遇ヲ受ケタル時其
官吏ハ一等ヲ加重ス

第八條　裁判官其他司法ノ官吏及ヒ警
察官吏糺問中被告人ニ對シ暴行ヲ

凡毀傷ノ又ハ豫謀毀傷ノ

加ヘ其他威迫ヲ以テ強テ白狀又ハ陳述
セシメタル時ハ拷問權利奪（一年ヨリ五年ニ至ル重禁錮）
並ニ二十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処
又因テ被告人ニ損傷ヲ加ヘタル毀傷ニ
ハ例ニ照シ重キニ從テ處斷ス
暴行威迫ヲ加ヘタル時ハ三月
ヨリ一年ニ至ル輕禁錮十円ヨリ四十
円ニ至ル罰金ニ處ス

第二款　裁判ヲ拒ミタル罪

第一條　司法又ハ行政官吏又ハ陸海軍
裁判官自己ノ權内ニ在事件ヲ受理ス
ヘクシテ千日間ニ長官ヨリ兩度ノ
求メヲ受ケ十日内ニ相当ノ事故ナクシテ
受理セサル時ハ十円ヨリ百円ニ至ル罰
金ニ處ス
其官吏ニ係ル事件ハ前項ノ規則
此一節ニ通用スル規則
ノ罰金ノ分十五月以上ノ禁錮ヲ科ス

此一節ニ記載シタル犯罪ニ於テ官吏ニ對シ刑ヲ科スル時罰金ニ該ルヘキ罪ト雖モ現任ノ職ヲ黜ケ且一年ヨリ五年ニ至ル時ハ公權ヲ行フヿヲ禁止ス

封印破毀ノ章ニ在ル金穀物件ト謂フ字ヲ削リ又此章ノ書記局藏書庫等ノ文字ヲ削テ改正セントス

第九章

第三節　官吏財産ニ對スル罪

第一款　官ノ金穀物件ヲ窃取スル罪

第一条　會計官吏又ハ公ケノ預リ人政府又ハ其他ノ官署ニ屬スル金穀物件ヲ書記局記録局藏書庫其他公ケノ物品ヲ藏スル場所ニ於テ職務ニ依リ自カラ看守スル所ノ金穀物件

全部又ハ一部ヲ窃取シタル時ハ八月
ヨリ四年ニ至ル重禁錮ハ四ヨリ八十
円ニ至ル罰金（并ニ窃取シタル金穀
物件ノ價ノ高ノ四分ノ一ヨリ少カラス半
ヨリ多カラサル罰金）ニ処ス
前項ニ記載シタル窃盗ヲ犯スニ重キ
状情アル時ハ窃盗ノ例ニ照シテ本刑
ヲ加重ス

第二条　官吏ニ非サル會計局ノ官吏
預リ入ノ手代其他前項ノ罪ヲ犯
シタルトキハ僕婢ノ其家主ノ物品ヲ
盗取シタルトキ処断ス（但シ罰
金ハ窃取シタル價ノ六分ノ一ヨリ少カ
ラス三分ノ一ヨリ過ルコトヲ得ス）
第三条　此罪ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シ
テ処断ス

第二款　聚斂ノ罪

第一条　政府又ハ官署ニ収納スヘキ租稅歲入

及ヒ入額賃附金ノ類

ヲ領取スルノ任アル官吏ヒトニ入ルヘキ

為メ当然取ルヘカラサルヲヲ知リ故ラ

ニ区数ノ外多餘ノ金額物件ヲ清求シ

又ハ領取シタルトキハ一年ヨリ廿年ニ

至ル重禁錮不正ニ領取シタル高ノ四

分ノ一ヨリ少カラス半ヨリ多カラサル

罰金ニ処ス

第二条　官吏ニ非サル手代ニシテ前条

ノ罪ヲ犯シタル時ハ前款第二条ノ例

ニ依テ処断ス

第三条　此罪ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シ

テ処断ス

（不正ニ領取シタル金額ハ本主ニ還附ス）

第三款　収賄ノ罪

第一条　行政司法ヲ問ハス官吏謝料ヲ受クヘカラサルニ金額物件ノ贈遺ヲ受ケ又ハ其贈遺ノ約ヲ兼諾シ依テ事ヲ為シ又ハ為スヘキ事ヲ為サヽル時ハ枉法不枉法ヲ分タス収賄ノ罪トナシ十箇年懲役（三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮）ニ処ス

前項ノ犯人ハ仍ホ贈遺又ハ約束高ノ四分ノ一ヨリ少カラス半ハヨリ多カラサル罰金ニ処ス

贈遺又ハ約束ヲ為シタル了ノ賍ヲ以テ計フヘカラサル事件（官職位階賞牌貴族ノ類）ニ係ル時ハ二十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス

第二条　贈遺又ハ約束ニ依リ官私ノ

害トナルヘキ所置ヲ為シタル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮（軽懲役）ニ処ス

第三条　官私ノ利益ニ関シタル訴訟ヲ決定スル為メ官署ヨリ命シタル判断人ニモ前条ノ刑ヲ通用スヘシ

第四条　前条ニ記載シタル贈遺ヲ得テ裁判官（陪審）被告人ニ対シ不正ナルヿヲ知リ重罪軽罪違警罪ノ刑ヲ宣告シタル時ハ偽証ノ例ニ照シテ一等ヲ加重ス

第五条　官吏又ハ判断人ニ贈遺又ハ其約束ヲ為シタル者ハ官吏又ハ判断人ト同シク処断ス

第六条　何レノ場合ヲ問ハス賄賂トシテ受取タル金額物件ノ受取タル者ノ

手ニ現在スル時ハ之ヲ没収ス若シ現在セサル時ハ(贈遺)セントスル所ノ高ニ均シキ罰金ニ処ス(金額ヲ追徴ス)贈遺ノ約ヲ為シタル物品賍ヲ以テ計フル方ヲ講シ時ハ仍ホ授受ヲ約シタル者ニ各其約束高ノ半ニ均シキ罰金ヲ科ス

第七条　此罪ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断ス

第八条　政府又ハ官署ニ属スル工事又ハ請負ノ入札ヲ取扱フヘキ又ハ此工事ヲ検査スヘキ又ハ請負ノ物件ヲ受ケ取り検査スヘキ又其所行ヲ監督スヘキ任アル官吏直接又ハ間接ニ其請負ノ便益ニ於テ利益ヲ已レニ受ケ又其約束ヲ為シ自カラ擔任スル所ノ便益ニ反シタル所為ヲ兼諾シ

教師確定

# 日本刑法第三編

刑法編纂課

又ハ其事ヲ停止スルヿヲ兼諾シタル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮并ニ已レニ受ケ又其約シタル利益ノ高ノ四分一ヨリサカラス半ヨリ多カラサル罰金ニ処ス

第九条　収賄ノ罪ニモ前三条ニ記載シタル例ヲ通用スヘシ

校正

日本刑法　第三編　八余

司法省

第三編　人ニ對シタル重罪軽罪

第一章　謀殺毒殺及ヒ故殺

第一条　豫ノ謀リ故意ヲ以テ人ヲ殺スヲ謀殺トナシ死刑ニ処ス

第二条　故意ヲ以テ人ヲ殺スニ拷打又ハ残忍ノ所為アル者ハ豫ノ謀ルニアラスト雖モ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ処ス

第三条　故意ヲ以テ人ヲ殺スニ二人以

上一人ニ對シタル者ハ豫ノ謀リナシト
雖モ誅殺ヲ以テ論シ死刑ニ処ス

第　条　死ニ致スヘキ物品ヲ施用シ故
意ヲ以テ人ヲ殺ス者ヲ毒殺トシ其施用
ノ方法效驗ノ遲速ヲ論セス又豫ノ謀ハリ
ナシト雖モ死刑ニ処ス

第　条　重罪軽罪ヲ犯スノ設備ヲナシ
又ハ容易ナラシリ又其重罪又ハ軽罪ヲ
犯シタル者ハ豫ノ謀リナシト雖モ又共犯附從ノ逃亡ヲ助ケ又
ハ其刑ヲ免ヌカルヽヲ目的トテ故
意殺ヲ行フタル者ハ死刑ニ處ス

第　條　前数條ニ記載スル罪ヲ除クノ
外故意ヲ以テ人ヲ殺ス者ハ車徒ニ處ス但
第　條ニ記載スル親族ノ罪ハ此例ニ
非ラス

第　條　人ヲ死ニ致スノ意ニテ直ニ死ニ至ル

ヘキ所行ヲ為スヘク指示シタル者ハ豫メ
謀ルト否トヲ區別シテ謀殺故殺ノ刑ニ
處ス

第　條　謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺傷
シタル者ハ本犯其人ニ對シ謀殺故殺ヲ行
フヘク決定シタル如ク其犯罪ノ刑ニ
處ス

第二章　人ニ對シタル毆擊創傷

第　條　殺スノ意ナク故意ヲ以テ人ヲ毆擊
創傷ヲナシ人ヲ死ニ致シタル者ハ重懲役
ノ長期ニ處ス

預メ謀リテ毆擊創傷シタル時ハ輕徒刑
ニ處ス

第　條　故意ヲ以テ人ヲ毆擊創傷シ其
視聽言語ヲ失ハシメ又ハ兩股ヲ折リ

及ヒ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覚精神ヲ喪失セシメタル者ハ重懲役ニ処ス

豫メ謀テ殴傷シタル者ハ重懲役ノ長期ニ処ス

第　條　故意ヲ以テ人ヲ殴撃創傷シ一肢一目ヲ失ハシメ其他身體ヲ不具ニ致シ又ハ其不具ト為ルヘキ切断ノ治療ヲ受ルニ至ラシメ又前条ニ記載シタル拴キ痼疾

又精神錯乱セシメタル者ハ軽懲役ニ處ス

豫メ謀テ殴傷シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條　故意ヲ以テ人ヲ殴撃創傷シテ二十日以上職業ヲ営スル能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ二十圓ヨリ二百圓ニ至ル罰金ニ處ス

其休業時間二十日以下ナル時ハ一月ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ五圓ヨリ二十五圓

ニ至ル罰金ニ處ス

休業ニ至ラスト雖モ身体ニ傷痍ヲ成スニ至ラシメタル者ハ十一日ヨリ一月ニ至ル重禁錮并ニ二圓ヨリ十四ニ至ル罰金ニ處ス

豫メ謀テ政傷シタル者ハ本刑四分ノ一ヲ加重ス

第條 人ヲ死ニ致スノ意ナシト雖モ深心ヤリテ故ラニ人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シタル者ハ其施用シタル方法ノ如何ヲ問ハス左ノ如ク處断ス

一 休業時間二十日以下ニ係ル者ハ十一日ヨリ六月ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ十圓ニ至ル罰金ニ処ス

二 休業時間二十日以上ニ係ル者ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ百円ニ至

ル罰金ニ處ス

三　死ニ致シタル者ハ輕懲役ノ長期ニ処ス

第　條　前第　章第　条ニ記載シタル原則ニ從ヒ惡意ヲ以テ教示シタルコトニ因リ身體ヲ傷シタル時ハ本章ニ記載シタル刑ニ處ス

第三十章

故意ヲ以テ殺、毆、傷ヲ為シタル罪ヲ宥恕シ又ハ之ヲ論セサル事

第　條　己レノ身體ニ對シ強暴ノ所行ヲ受ルニヨリ直ニ怒ヲ発シ強暴者ヲ故殺シ又ハ毆傷ヲナシタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

己レノ罪過ニヨリ暴行ヲ受ケ怒ヲ発シ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ宥恕セサ

ルコアリ

又夫婦互ニ暴行ヲ受ケ怒ヲ発シ第一項ノ罪ヲ犯スト雖モ其罪ヲ宥恕セス

第　條　親属姻属雇主朋友又ハ軟弱ノ他人ノ者暴行ヲ受ルヲ目撃シ直ニ怒ヲ発シ暴行人ヲ故殺シ又ハ毆傷スル者ハ其罪ヲ宥恕スルコヲ得

第　條　昼間人ノ住スル家屋又ハ建物アルト否トヲ問ハス直ニ其家屋ニ継続スル所ノ牆塀ニ攀援シ又ハ之ヲ破壊シ又其場所ニ暴ニ入リ又ハ窃ニ入ルヲ防止シテ故殺シ又ハ改傷ヲナシタル者ハ亦其罪ヲ宥恕ス

然レ𪜈其事實ノ景況ト侵入者ノ身分トニ於テ人ノ身体又ハ財産ノ為メ更ラニ危害ヲ來タサヽルヲ知リテ前項ノ罪ヲ犯シ

タル者ハ其罪ヲ宥恕セス

第　條　本夫姦所ニ於テ直ニ姦婦姦夫ヲ故殺シ又ハ毆傷シタル時ハ其罪ヲ宥恕ス

然レ𪜈本夫先キニ本婦ノ姦ヲ縱容シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ宥恕セス

第　條　盜犯ヲ防止シ又ハ直ニ其盜賍ヲ取置ン為メニ盜犯ヲ故殺シ又ハ毆傷ヲナシタ

ハ者ハ亦其罪ヲ宥恕ス

第　條　前數条ニ於テ其罪ヲ宥恕スヘキ時ハ第　章ニ記載シタル區別ニ從ヒ本罪ニ三等又ハ四等ヲ輕減ス

第　條　自己又他人ノ為メ正當ニ防衛スル為メ己ムヲ得サルニ出テ故殺ヲナシ又毆傷ヲナシタル者ハ正理トナシ其罪ヲ論セス

第　條　己レノ罪過ニヨリ先行ヲ爻ケ防衛

スハニ出テ故殺シ又毆傷ヲナシタル者ハ
本罪ニ二等又ハ三等ヲ減ス
防衛スハニ其適度ヲ過シテ故ラニ兇行人ニ
害ヲ加ヘ又ハ已ニ其危害ノ消滅シタル後ニ
於テ尚オ兇行人ニ害ヲ加ヘタル者モ亦同
シ

第　條　左ニ記載シタル件々ニ於テ故殺毆
傷ヲナシタル者ハ已ムヲ得ス正當ニ防衛ス
ルノ方法ニ出テ正理トナシ其罪ヲ論セ
ス

一　動産不動産ヲ論セス其所有者放火又ハ
破壞ヲ防禦スルニ出テ為シタル件

二　強盜搶奪ヲ防止シ又ハ直ニ其盜賍ヲ取
還スルニ出タル時

三　夜間ニ故ナク人ノ居住スル家屋門牆ニ
侵入シ若クハ攀援破壞セントスルヲ防

止スルニ出タル時

但第　條ノ第二項ニ記載シタル犯罪ニ係ル者ハ不論ノ限ニ非ラス

第四章　故意ニ非ラスシテ人ヲ死ニ致シ又毆傷ヲナシタル事

第　條　疎忽疎虞、懈怠、又習慣、規則ヲ遵守セサルニヨリ故意ニ非ラスシテ人ヲ死ニ致シ又ハ人ヲ死ニ致スノ原由ヲナシタル者ハ五月ヨリ十年ニ至ル軽禁錮並ニ十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ處ス

第　條　故意ニ非ラスシテ人ヲ死ニ致スニアラ

サレモ創傷毆擊又ハ其他ノ怪我ヲナシ第
二章第條第條ニ記載シタル癈篤疾ニ
致シタル者ハ一月ヨリ十年ニ至ル輕禁錮
並ニ五圓ヨリ五十圓ニ至ル罰金ニ處ス
第條其怪我ニヨリ休業スルニ至リタル
者ハ一日ヨリ三月ニ至ル輕禁錮並ニ三圓ヨ
リ十圓ニ至ル罰金ニ處ス
第條休業セシムルニ至ラサレモ一時健康
ヲ損シ又ハ傷痍ヲナシタル者ハ二圓ヨリ
五圓ニ至ル罰金ニ處ス

第五節　自殺ニ干渉スハ犯罪

第　條　左ノ件々ニ於テハ十年ヨリ五年ニ至ハ軽禁錮並ニ十円ヨリ百円ニ至ハ罰金ニ處ス

一　故ラニ人ヲシテ自殺スハ可ラ決心セシメタハ者

二　囑托ヲ受ケ其内外ノ苦痛ヲ免ヲカレシムハ為メ死ニ致シタハ者

手自殺ノ時ニ於テ其直ニ補助ヲ為シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス

以上自殺ヲ遂ケタル時始メテ其罪ヲ論

不

第　條　左ノ件々ニ於テハ前条ニ記載シタル刑ニ一等ヲ減ス

一　前条ニ記載シタル者並ニ自殺ヲ為ス本人ニ其方法ヲ與ヘ又ハ誘導指示シタル者

二　預備ノ行為ヲ以テ前項ニ記載シタル者ヲ補助シタル者

第　條　教唆者又ハ自殺ノ補助ヲ為ス者ノ意外ノ景況ニヨリ自殺ヲ仕損シタル件ハ前二条ニ記載シタル刑ニ一等若シクハ二等若シ犯ヲサントセシ所為ヲ中止シタル件ハ二等又ハ三等ヲ軽減

ス

第　條　已レノ利欲ヲ逞スルノ意ニ出テ

第　條第一項ニ記載シタル自殺者ヲ挑唆シタルトキハ自殺ヲナシタルトキハ重懲役ニ處ス

若シ自殺ヲ遂ケサル時ハ前條ニ記載シタル権衡ニ従ヒ本刑ヲ軽減ス

挑唆者ニ附従アル時ハ法例第

條ニ照シテ處断ス

第四章　墮胎ノ罪

第　條　懷胎ノ婦女自ラ食料飲料物品ヲ用ヒ又ハ或ル方法ヲ以テ故ラニ墮胎シタル時ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ五四ヨリ五十四ニ至ル罰金ニ処ス

第　條　懷胎ノ婦女ヲ故ラニ墮胎セシメタル者前同刑ニ処ス

依テ婦女ヲ死ニ致シタル片ハ二年ヨリ五

年ニ至ル重禁錮並ニ千十四ヨリ千百四ニ
至ル罰金ニ處ス

第條　医師下等医士、藥ヲ販賣スル者並ニ
産医（産婆）懷胎ノ婦女ヲ墮胎セシメタル時ハ
免状ヲ奪ヒ三年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ三十四ヨ
リ三百四ニ至ル罰金ニ處ス
依テ婦女ヲ死ニ致シタル時ハ軽懲役ニ處
ス

第六章　法ニ背キ人ヲ逮捕シ及ク
人ヲ拘置スル事

第條　法律ニ循ヒ犯人ヲ逮捕シ又逮捕
スヘキ許可スル場合ニ非スシテ人ヲ逮
捕シタル者ハ十一日ヨリ一月ニ至ル軽禁
錮ニ處ス但シ衣服ヲ僭用シ姓名ヲ詭リ又
ハ官署ノ命ヲ偽リテ人ヲ逮捕シタル者ヲ
重キ刑ニ處スルトキハ相抵觸スルコトヲ
得ス

第　條　人ヲ逮捕シ依テ枉ニ人ヲ私舍ニ
拘置シタル者ハ拘置ノ日數一ケ月又ハ
一月以上ニ論ナク二月ヨリ四月ニ至ハ
重禁錮ニ處ス但シ其拘置ノ日數一月又
一月以下ヲ加重スルニ從ヒ二月ヨリ四月
ニ至ハ禁錮ノ期限ヲ倍重スハト雖モ通常
ノ長期ノ二倍以上ニ至ハヲ得ス
第　條　其拘置シタル者ヲ毆擊シ又ハ拷
打シ又ハ飲食衣服ヲ奪去シ空気ノ
流通ヲ奪ヒ又其者縛シ又屢〻之ヲ縛シ又
其者ヲ殺サント脅迫シタル者ハ其拘置シ
タル期限ノ長短ニ論ナク輕懲役ニ處ス
拘置シタル者ニ苛刻ナル待遇ヲナシ二十日
以下職業ヲ營スル能ハサルニ至ラシメタル
者モ亦同シ
第　條　拘置シタル者ニ苛刻ナル待遇ヲナシ

二十日以上職業ヲ営スル能ハサルニ至ラレ
メタル者ハ軽懲役ノ長期ニ處ス

第　條　拘置シタル者ニ苛刻ナル待遇ヲナシ
第　章　第　条ニ記載シタル廢疾ニ致シタル
者ハ重懲役ニ處ス

拘置シタル者ニ苛刻ナル待遇ヲナシ第
章　第　条ニ記載シタル廢疾ニ致シタル
者ハ重懲役ノ長期ニ處ス

第　條　犯人ニ對シ未タ公訴ノ初ヲサル前
其拘置シタル者ヲ犯人自ヲ解放シタル時
ハ前數條ニ記載シタル刑ノ央ヲ軽減ス

第　條　拘置セラレタル者其苦痛ヲ免ヌカレ
シタメ自殺シタル時ハ犯人ヲ軽徒刑ニ處
ス

第　條　前条ノ原由ニテ自殺シタルニ非ス
拘置セラレタルニヨリ其期限中又解放

ヲ受ケタル後三十日内ニ拘置シタル者ヲ
死ニ致シタルニ若シ犯人死ニ致スノ意ナ
キ時ハ重徒刑ニ處ス
若シ死ニ致スノ意アリタル時ハ謀殺ヲ以テ
論シ死刑ニ處ス

第七章　脅迫

第　條　人ヲ殺サントシ脅迫シタル者ハ左ノ
區別ニ從ヒ処断ス
一　言語ヲ以テ殺サントシ脅迫ヲナシタル者ハ
二年ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨ
リ二十円ニ至ル罰金ニ処ス
二　無名ノ書類記名ノ書類又画像ヲ以テ殺サントシ脅迫シタル者ハ六月

ヨリ十年ニ至ル重禁錮並ニ千十円ヨリ
百円ニ至ル罰金ニ処ス

三 脅迫ニ附加シテ當然ニ尽スニ及ハサル事
ヲ為スヘク又物ヲ渡スヘク又當然ノ事
ヲ止ムヘノ命シタル片ハ前二項ニ記載シ
タル区別ニ従ヒ本罪ヲ二倍ス但シ

第 条身體ニ對シ創傷殴撃又其他暴行ヲ
ナサント脅迫シタル者ノ左ノ区別ニ従ヒ
処断ス

一 前 条ノ記載シタル場合ニ於テハ
十五日ヨリ六月ニ至ル重禁錮並ニ二円
ヨリ十円ニ至ル罰金ニ処ス

二 仝上条ニ記載シタル場合ニ於テハ
一月ヨリ十年ニ至ル重禁錮並ニ五円
ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

前二条ニ於テ載セタル言渡ノ件ニ付シ免者ハ笞刑ニ処ス

三　仝上第三項ニ記載シタル場合ニ於テハ本刑ヲ二倍ス

第　条　財産ニ放火シ又之ヲ破壊セント脅迫シタル者ハ前条ニ記載シタル区別ニ従ヒ同刑ニ処ス

第　条　犯人重罪又ハ軽罪ヲ犯スノ意ナシト雖モ故ラニ人ヲ恐怖セシムルノ意ニ出テ人ニ脅迫シタルノ証アル中ハ前　条ニ記載シタル刑ヲ科ス

裁判所ニ於テ脅迫ヲ受ケシ者ノ年齢身分老若男女ニ注意スヘシ

若シ親属若クハ朋友ニ害ヲ被ラシムヘク脅迫シタルトキハ裁判所ニ於テ其脅迫ヲ受ケシ者ノ恐怖シタル度ヲ監定ス

第　条　第　条ハ脅迫ヲ受ケシ者告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

司法省

第章　卑属親尊属親ニ對シ犯シタル
重罪並軽罪

第條　故意ヲ以テ卑属親實養父母又其他
ノ尊属ノ親ヲ殺シタルヲ殺親ノ罪トナシ
死刑ニ処ス
然レ氏第　章官殺第　條ヨリ第　條ニ至
ル條々ニ記載シタル場合ニ於テハ本罪ニ
一等ヲ加重ス

第　條　故意ヲ以テ実養尊属ノ親ニ對シ創
傷政擊ヲナシ殺意ナク死ニ致シ又廢篤疾
ニ致シ又職業ヲ營スル能サルニ致シ又其
他身体ニ疾疵ヲ為シタル者ハ第　章第
條ヨリ第　條ニ至ル條々ニ照シ本罪ニ一
等ヲ加重ス
実養尊属ノ親ニ對シ健康ヲ害スヘキ物ヲ
施用シ又尊属ノ親ヲ拘置シ又脅迫シ又其
名譽ヲ害スル重罪又軽罪ヲ犯シタル者モ
亦同シ
第　條　尊属ノ親ヲ保養スヘキ卑属親故ヲ
ニ充分ニ食物ヲ与ヘス又其他生命及健康
ノ為メ必要ナル保養ヲ欠ク時ハ左ノ区別
ニ從ヒ處分ス
依テ殺意ナク死ニ致シ又第　章第　條ヨ
リ第　條ニ至ル條ニ記載シタル廢篤疾ニ

致シ又身体ニ疵疵ヲ為シタル時其條々ニ
記載シタル刑ニ一等ヲ加重ス
尊属ノ親ヲ寥閑ノ地ニ棄テタル者ハ第
條ニ照シ本罪ニ一等ヲ加重ス
其他ノ場合ニ於テハ一月ヨリ一年ニ至ル
重禁錮並ニ十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ處
ス
第　條　何カタル場合ニ於テモ故殺創傷改
擊ノ為メ特別ノ宥恕ノ軽減ヲ蒙サス
第　條　本人ノ意外ノ景況ニヨリ重罪又ハ
軽罪ヲ仕損シ又ハ其犯サントセシ所為ヲ
中止シタル片仕損シノ場合ニ於テハ本罪
ニ一等及ヒ中止ノ場合ニ於テハ本罪ニ二
等ヲ減ス

第十章　幼児又癈篤疾者ヲ放置スル事

第條　十歳以上七歳以下ノ幼児ヲ寥闃ナラサル場所ニ放置シ又ハ放置セシメタル者ハ二月ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ処シ五回ヨリ五十回ニ至ル罰金ニ處ス

自己ニテ保養スヘキ任アル親族、癈篤疾者又病者ヲ寥闃ナラサル場所ニ放置シ

又ハ放置セシメタル者ハ前同刑ニ処ス

若シ二歳以下幼児放置シタル者ハ本刑ヲ二倍ス

第　條　前条ノ第一項二項ニ記載シタル者ヲ廖闃ノ場所ニ放置シタル時ハ四月ヨリ二年ニ至ル重禁錮并ニ十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス

二歳以下ノ幼児ヲ放置シタル時ハ本刑ヲ二倍ス

第　條　放置シタル犯人其放置セラレタル者ノ養父母又給料ヲ得テ其節保養ヲヘキ任アル時ハ前　條ニ記載シタル刑ノ夾ヲ加重ス

第　條　前　條ニ記載シタル放置ス因テ其放置セラレタル者ヲ第　章第　條及第　條ニ記載シタル廃篤疾ニ致シ又身体ニ疵

傷ヲナシタル時ハ其弟　條及弟　條ニ照シ
刑ニ処ス
寥閑ナラサル場所ニ放置シ因テ死ニ致シ
タル時ハ重懲役張期ニ処シ若シ寥閑ナ
ル場所ニ放置ニ因テ死ニ致シタル時ハ軽
徒刑ニ処ス
弟　條　他人ノ子ヲ預リタル者其子ノ引渡
ヲ求ル可キ権アル者又官署ヨリ求メヲ受
ケ其子ヲ引渡サス且其子ノ居ラサル原
由ヲ證セサル時ハ重懲役ニ処ス

第十一章　幼児ノ家屬ノ權ヲ害スル重罪及ヒ軽罪

第　條　尊族ノ親ニアラス且尊族ノ親ノ許諾ヲ得ス七歳以下ノ幼者ヲ略シ又ハ偽計ヲ以テ誘出シ自己ノ權内ニ置キ又ハ他人ノ家ニ方ヘタル者ハ左ノ如ク処断ス

一　病疵又廃焉疾ニナラス幼児存在スル片ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮ニ二

十円ヨリ二百円ニ至ル罰金ニ處ス

二　其幼児ヲ見出スト雖モ疾若シクハ不具ニナリタルニ犯人其怪我ノ原由又之ヲ防止シ能ハサルノ原由ヲ記セサル片ハ幼児ヲ放棄シ因テ身体痍傷ヲナシタル者ノ為メ定メタル刑ニ処ス

三　其幼児ノ存在セサルトキハ重懲役

第　條　略シ又ハ誘出シタル幼者ヲ其情ヲ知リテ自己ノ家族トナシ又ハ其他ノ名義ヲ以テ引受ケタル者ハ前項ノ共犯

〔副正犯〕トナシテ処断ス

第　條　養子ニ係ル條件ヲ除クノ外尊族ノ親又ハ尤人其尊族ノ親ノ許諾ヲ得テ幼者ヲ其家ヨリ出シタル者ハ前条ノ一項ニ記載シタル刑ニ二等ヲ減ス

第　條　十二歳以上二十歳以下ノ幼者ヲ略シ

タル者ハ前数条ニ記載シタル刑ニ一等ヲ減ス

若シ十二歳以上ノ幼者ヲ和誘シタル時ハ二等ヲ減ス

第十二章　猥褻及淫亵婚ノ犯罪

第　條　左ノ件々ニ於テハ一月ヨリ一年ニ至ル亵禁錮並ニ五十円ヨリ二十百円ニ至ル罰金ニ處ス

一　十二歳以下幼子又ハ幼女ニ對シ暴行ヲ將ヒス猥褻ノ所行ヲ為シタル者

二　十二歳以上ノ幼子又ハ幼女ニ對シ暴行脅

迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者

第　條　十二歳以下ノ幼者ニ對シ暴行脅迫ヲ將テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ六月ヨリ四年ニ至ル重禁錮並ニ二十円ヨリ二百円ニ至ル罰金ニ處ス

第　條　暴行脅迫ヲ將テ十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ軽懲役ニ處ス

強姦ヲ犯ス目的ニテ策略ヲ用ヒテ睡眠セシメ又氣絶セシメ若シクハ其他精神錯乱セシメタルニ乘シ強姦シタル者モ亦タ同シ

第　条　前条ニ記載シタル方法ヲ用ヒ十二歳以下ノ幼女ヲ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

其他ノ場合ニ於テハ軽懲役ニ處ス

第　条　左ニ記載シタル者前　条ノ罪ヲ犯

シタルトキハ一等ヲ加フ

一　被害者ノ尊属ノ親ナルトキ

二　其後見人監察者受業師雇主及ヒ被害者ニ對シ法律上又ハ事実ニ於テ権アル者ナルトキ

三　被害者ノ雇人及ヒ前三項ニ記載シタル者ノ雇人ナルトキ

四　医師僧徒官吏其権ヲ以テ犯シタル

午

五　數人共謀シテ此罪ヲ犯シタルトキ

第　條　前數條ニ記載シタル條件ニ於テ若シ被害者丁年以上ナルトキハ其告訴又其幼者ニ係ルモノハ尊属ノ親後見人監察者ノ告発ヲ待ツテ其罪ヲ論ス

第　條　前數條ニ記載シタル所行ニ因リ第二章第　條　條　條ニ記載シタル如ク人

ヲ死ニ致シ又廃篤疾痼疾ヲ為シタル者
前數條ノ刑軽キ時ハ其條々ニ記載シタル
豫メ謀リテ創傷毆擊ヲナシタル刑ニ處
ス

第　條　他人ニ連情ニヨリ已ヲ利スル為メ
男女ヲ論セス其幼者ノ淫行ヲ誘起シ及幇
助シタル者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮
並ニ十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ處ス

第　條ニ記載シタル者其罪ヲ犯シタル件ハ
一等ヲ加フ

第　條　茨罪ヲ犯シタル妻ハ三月ヨリ二年
ニ至ル重禁錮ニ處ス

茨夫ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ十
円ヨリ千百円ニ至ル罰金ニ處ス

第　條　茨罪ハ夫ノ告訴ヲ待ツテ其罪
ヲ論ス若シ夫茨婦ノ婚ヲ解カス再娶ス

レフヲ肯スル時ハ茨婦ニ言渡シタル刑ヲ
停止スルヿ得
本夫先ニ縱容茨罪ヲ行ハシメタル中ハ本夫
ノ告訴ハ其効ナシトス
第　條　前督ヲ解カサル中更ラニ再督
ノ契約ヲ為シタル者ハ重禁錮
金ニ円ヲ入
六月三年
十四五十四円

# 第十三章　他人ノ名譽ヲ害スル犯罪

誣告　毀損　侮告

誣告律ノ改正

第八十四条　書面又ハ相当ノ式ニ従ヒ陳述シ言語ヲシテ故ラニ糺問ヲ被ラシムル為メ不實ノ事ヲ司法官署ニ告訴告発シタル者ハ重罪軽罪違警罪ノ偽証シタル刑ニ依テ處断ス

第八十五条　誣告セラレシ者糺問ヲ受ケ不当ノ刑ニ處セラレタル時ハ第二編第四章第六節第四条第五条ニ依テ処断ス

誣告ト為シ

五年ニ至ル重禁錮並ニ二十円ヨリ三百円
ニ至ル罰金ニ処ス
二　其事軽罪ノ刑ニ該リ又公ケノ官職ヲ失
ヒ名望ヲ害スヘキニ係ルトキハ三月ヨリ
一年ニ至ル重禁錮並ニ二十円ヨリ百円
ニ至ル罰金ニ処ス
三　其事違警罪ニ該ルトキハ裁判所ニ於テ違
警罪ノ刑一又ハ両刑ニ処ス

十五日号ニ至ル



第　條　官署ノ諾向ヲ受ケ誣告シタル者ハ
一等ヲ減ス
第　條　已ニ誣告シタル事紀向ヲ始メタル
片ハ其確定ノ宣告ヲ待テ誣告者ノ裁判ニ
ナス
第　條　誣告サレタル者ニ対シ推向ヲ始メ
ス又誣告ニ因リ更ラニ害ラナサヽル前ニ解
訴スルトキハ犯人ノ罪ヲ全ク宥恕ス

第　條　人ノ名譽ヲ害スルノ意ニテ公然ト人ノ惡事惡者ヲ擧ケタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス毀滅ノ罪犯トナシ左ノ如ク處斷ス

一　若シ言詞ヲ以テ公然人ヲ毀滅シタル者ハ十一日ヨリ二月ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ十円ニ至ル罰金ニ處ス

二　若シ無名記名ノ書面ヲ以テ又ハ公然ト画図



ヲ分配シ、賣買シ若シクハ衆目ニ觸示シ又ハ人ヲ毀滅シタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

第　條　刑民ノ問ハヌ公判ニ於テノ辯論並ニ宣告シタル裁判書ノ眞ノ刊行シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ヲ科セス

第　條　死人ニ對シ毀滅シタル者ハ其事惡

意ニ出テ誣告性質ヲ有スル片ハ前五條ノ刑ニ処ス

第十條　此章ニ記載セシ犯罪ハ被害者ノ告訴又ハ被害者死去シタル片ハ其親属ノ告発ヲ待ツテ其罪ヲ論ス

第十一條　公然ト不敬ノ言詞ヲ用フト雖モ其名誉ノ害トナル悪事悪名ヲ指示セサル時ハ誹謗罵詈ノ罪トナシ違警罪ノ刑ニ依テ



処断ス

第十二條　誣告並ニ誣毀ノ罪犯ヲ処断シタル片裁判所ハ被害者ノ請求ニヨリ其他ノ新聞誌ニ裁判書ヲ告ヲ命シ且其言渡書ノ副本数通ヲ被害者ニ給与スルヲ命スルコヲ得但シ以上ノ費用ハ犯人ヲシテ出サシムヘシ

裁判所ハ尚ホ誣毀ノ書類又ハ画図ヲ滅却

シ若シ其書籍冊子ニ係リテハ未タ賣拂サルモノハ改正ヲ命スルヲ得

第　條　医師薬典産医代言人公証人代書人又僧徒自己身分職業ニヨリ委托セラレ又ハ之ニ因テ知リタル隠事ヲ害スルノ意ニテ一人又ハ数人ニ漏告シタル者ハ十月ヨリ六月ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ百円ニ至ル罰金ニ処ス

第　條　前条ニ記載シタル者ハ其身分職務ニ依リ依托セラレ又ハ之ニ因テ知リタル事件ニ付キ裁判所ノ前ニ於テ証人トナリ陳述スルヲ辞スルヲ得然レトモ若シ証人トシテ呼出サレ其隠事ヲ漏告シタルトモ害スルノ意ニテ申告シタルト見做スヘカラス

教師

日

刑法編纂課

教師

日

毆殺　重懲役。
故毆殺　右同律刑ノ例ニ準ス
罵疾　軽懲役。
故罵疾　右同律ノ例ニ準ス

癒疾　二年ノ内ニ
故癒疾　ノ例ニ準ス

罰金三十円五十円
三年ノ内ニ
六年四月

休業以上　一年ノ内ニ
故休業以上　ノ例ニ準ス

罰金十円五十円
一年四カ月三年九月

休業二十日以下　一月一年
故休業二十日以下　ノ例ニ準ス

罰金五円二十円
一カ月七日一年三月

休業二至ラサル者　一月
故休業二至ラサル者　ノ例ニ準ス

罰金三円十円
十日ノ内一
一日一等十四日一月七日

210

刑法編纂課

教師確定

# 日本刑法第四編

刑法編纂課

校正

# 日本刑法

## 第四編

賊盜

東京法學會

# 第編　財産ヲ害スル重罪軽罪

## 第一章　盜罪

### 第一節　暴行ヲ用ヒサル盜

第　条　他人ニ属スル物品ヲ、所有者ノ承諾ナク故ラニ已レノ所有物ト為シ又ハ已ヲ利スル為メ又ハ他人ニ利ヲ得セシムルノ意ニテ盜取シ左ニ之記スル重キ情状ナキモノハ単一ノ盜罪トナシ二月ヨリ二年ニ至

ル重禁錮並ニ二回ヨリ二十回ニ至ル罰金
ニ處ス

第　条　他人ニ抵当トシテ質入レ又ハ裁
判所ヨリ差押ヘ他人ヲシテ管守セシメ
タル物件ヲ故ラニ其所有者盗取シタル
片ハ単一盗トナシ處断ス但シ罰金ヲ
附加スルノ限ニ非ス

第　条　遺失物ヲ拾ヒ之ヲ直ニ事主ニ返
還セス又ハ地方官署ニ届ケサル者ハ單
一ノ盗罪ヲ以テ論ス

第　條　僕婢手代又ハ常職人年期ノ命
子其主人授業師又其同居人ニ對シ盗罪ヲ犯
シ又主人又授業師、其婢僕手代職人命
子ニ對シ盗罪ヲ犯シタル片ハ四月ヨリ四年
ニ至ル重禁錮並ニ四回ヨリ四十回ニ至ル
罰金ニ処ス

第　条　旅店ノ主人、水路運送人、又ハ其代
召使旅人ノ旅店、舩舶ニ携帯シ居物件
ヲ盗取シ又海陸旅人、又ハ其手代召使、旅
店及ヒ舩舶又其他ノ海陸旅人ニ属スル物
件ヲ盗取シタル中ハ前同刑ニ処ス

第　条　火災地震洪水騒乱難船其他預知ス可
カラサル非常ノ際ヒヲ得ス附託シタル
物件ヲ盗取シタル中モ亦同シ

第　條　前條ニ於テ若シ偽鑰ヲ用ヒ又ハ
鎖閉セシ箱、家具又其他ノ物件ヲ破壊
シテ盗罪ヲ犯シタル中ハ本刑ニ四分ノ一ヲ
加重ス（五月ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ五
円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ当ル）

第　條　盗罪ヲ成就スル為メ姓名ヲ詐称シ
衣服ヲ僭用シテ所有者ヲ欺キタル者ハ三月
ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ三円ヨリ三十円

ニ至ル罰金ニ處ス但シ文書ヲ偽造シタル罪重キハ其重キニ從フ可シ

第　條　破壞、攀援偽編ヲ用ヒテ人ノ住居セサル家屋又園ノ土藏倉庫（物置ト云フモノ乎）内ニ入リ盜罪ヲ犯シタル者ハ三月ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ三円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ處ス

若シ婢僕又ハ第　條ニ記載シタル者其盜罪ヲ犯シタルトキハ第　條ノ刑ニ四分ノ一ヲ加重ス

第　條　偽編攀援又ハ外部ノ破壞ヲ用ヒテ人ノ住居シタル家屋又ハ其家屋ニ屬シタルモノヽ内ニ入リテ盜罪ヲ犯シタル者ハ四月ヨリ四年ニ至ル重禁錮並ニ四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ處ス

若シ左ニ記スル所ノ重キ情狀ノ一個アル毎ニ尚前項ノ刑ニ一等ヲ加フ

一　盜犯人被害者ノ婢僕又ハ其他第　條ニ記載シタル者ナルトキ

夜間盗罪ヲ犯シタル片

正犯二人以上ナル片

四　犯人假面又ハ其他ノ物ヲ用ヒテ面部ヲ蓋フル片

五　犯人自ラ携帯シタルト場所ニ於テ取リタルトヲ問ハス武器ヲ持シタル片

第　條　攀援、破壞、又ハ偽鑰ヲ用ヒス窃カニ人ノ住居シタル家屋内ニ入リ盗罪ヲ犯シタル片ハ単一ノ盗罪トナシ左ニ記定スル情状ノ一個アル毎ニ四分ノ一ヲ加フ

一　鎖閉シタル箱匣、家具ニ對シ内部ノ破壞ヲナシ又ハ偽鑰ヲ用ヒテ盗罪ヲ犯シタル片

二　犯人面部ヲ蓋フ為ノ假面又ハ其他ノモノヲ用ヒタル片

三　犯人兇器ヲ持シタル片

若シ婢僕手代常職人年期ノ弟子本条ノ
盗罪ヲ犯シタルトキハ第　条ノ刑ニ加重ス
第　條　道路水路又ハ港内ニ於テ人馬車舟、
ノ通行ヲ留メテ盗罪ヲ犯シタル者ハ
四月ヨリ四年ニ至ル重禁錮並ニ四円ヨリ四
十円ニ至ル罰金ニ処ス
前第　条ニ記載シタル重キ情状アル毎ニ
尚ヲ一等ヲ加フ

第　條　田野ニ於テ耕作物并ニ需用産物
ヲ盗取シテ左ニ記セシ重キ情状ナキモノハ
已ニ獲取スルト未タ獲取シタルトヲ問ハス
十一日ヨリ二月ニ至ル重禁錮并ニ二圓ヨリ
十圓ニ至ル罰金ニ処ス
田野ノ場合ニ於テ僅カ其耕作物并ニ地
ノ産物ヲ食スル為メ盗取シタル片ト違
警罪ノ編ニ定ムル規則ニ従フ

第　條　田野ニ於テ盗罪ヲ犯スニ籠袋
馬車又ハ物ヲ負ハシムル獣類ヲ用ヒタル
者ハ三月ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ三圓
ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ處ス
若シ左ニ記スル重キ情状アルモノハ本刑ニ
四分ノ一ヲ累加ス
一　夜間ニ犯シタル件
二　犯人二人以上ナル件

若シ盗犯人所有者ノ雇傭手代職人ナル件
ハ前二個ノ一個アル毎ニ第二條ニ記載シ
タル刑ニ四分一ヲ累加ス
第　條　田野ニ於テ培養物蒿及ヒ牆塀ニ用
ヒヘキ木竹及ヒ牆塀又ハ建物ヲ取建ル為
メ田野ニ置キタル木、石其他ノ物件ヲ盗取
シタル者モ前二ケ条ノ適用ス
第　條　左ノ件々ヲ犯シタル者ハ田野ノ盗

罪ノ区別ニ從ヒ処断ス

一 森林ニ於テ賣出ス為メニ伐出シタル木竹、木皮又ハ木炭ヲ盗取シタル代

二 石礦ニ於テ已ニ伐リ出シタル砂石、石灰ヲ盗取シタル代

三 池又ハ沼ニ於テ魚類ヲ盗取シタル代

第十四條 官民ノ森林ニ於テ樹木ヲ伐リ盗ミタル時ハ左ノ件々ニ因テ處断ス

一 若シ竹木ノ大サ周囲二尺以上ナル代ハ二月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ四圓ヨリ四十圓ニ至ル罰金ニ處ス

二 若シ竹木周囲一尺ヨリ二尺ニ至ル代ハ一月ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

三 若シ其伐リ取ル竹木ノ大サ周囲一尺以

下ニ係ルモノハ十一日ヨリ二月ニ至ル重禁錮並ニ二圓ヨリ十円ニ至ル罰金ニ処スル以上直径ノ尺ヲ計ルモノヽ地上四尺ヲ以テ真度トス

第十五條　田野牧場ニ於テ大小ノ獸類又ハ物ヲ負載スヘキ獸類ヲ盜取シタル者ハ三月ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ三円ヨリ三十円ニ至ル罰金ニ處ス

第十六條　前數條ニ記載シタル犯罪ノ中止及ヒ仕損ハ各例第百十三條及ヒ第百十四條ニ從ヒ處斷ス

第十七條　夫婦又ハ実養宗系ノ親屬又ハ同級ノ姻屬ノ親互ニ此ノ一節ニ記載シタル盜罪ヲ犯シタル時ハ其刑ヲ赦宥シ贓物ヲ還取シ損害ノ償ヲ為サシム

親屬ニ非ラサル者己ヲ利スル為メ盜罪

ニ組ミシタル正犯附從ハ前項ノ便益ヲ
求ルヿヲ得ス

第十八條　盜罪ヲ赦宥スル親屬ヲ除クノ
外親屬又幼者其後見人、監察人、生徒其授
業師婢僕手代又其他第二條ニ記載シタル
者互ニ犯シタル盜罪ハ被害者ノ告訴ヲ
待ツ其事ヲ論ス

除

然レトモ街道水路田野ニ於テ盜罪ヲ犯シ
タル者ハ告訴ヲ待タス其罪ヲ論ス

第節　暴行ヲ用ヒタル盗罪

第条　盗罪ヲ行フヲ為メ人ヲ殺サントス又ハ創傷殴擊ヲ加ヘントス脅迫シ又ハ人ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ仍テ身体ニ創傷ヲナサス且盗罪ヲ遂ケサルトキト雖モ暴行ヲ用ヒタル盗罪トナシ軽懲役ニ処ス

盗罪ヲ犯シタル後本人又ハ其他ノ正犯(附従)ヲシテ逃亡セシメ又ハ其刑ノ免カレシ

メレ為メ脅迫暴行ヲ用ヒタル者モ亦同
シ

第条 暴行ヲ用テ盗罪ヲ犯スニ在ニ記
載シタル重キ情状ノ一個アルモノハ重
懲役ニ処ス

一 夜間街道ニ於テ盗罪ヲ犯シタル
時

破壊攀援偽鑰ヲ以テ人ノ住居シタル
家屋又ハ其家屋ニ継續シタル場所ニ
入リ盗罪ヲ犯シタル片

三 犯人二人以上アル片

四 犯人表檣又ハ暗藏ノ兇器ヲ持シタル
片

五 假面又ハ其他ノ物ヲ用ヒタル片

六 第條ニ記シタル者盗罪ヲ犯シタル
片

第條　暴行ヲ以テ次ニ記載シタル疾笞疾ニ至ラサル痍傷ヲナシタル件ハ重懲役ノ長期ニ處ス

第條　盜犯暴行ヲ以テ疾笞疾ニ致シタル者ハ輕徒刑ニ處ス

第條　盜犯死ニ致スノ意ナクシテ死ニ致シタル者ハ重徒刑ニ處ス

依テ故殺スル者ハ第　章　條ニ從ヒ死刑ニ處ス

第條　暴行、創傷、毆擊ヲ以テ記名ノ約定書（義務ノ証券）諸取書、釋放書、ヲ強取シ又ハ之ニ因テ或ハ物件ヲ得タル者ハ前數条ニ記セシ刑ニ據テ處斷ス

第節　倒産、詐欺、取財及ヒ背信ノ犯罪

第條　債主ヲ害スルノ意ヲ以テ貸高ノ一部ヲ匿シ又ハ已レノ負ハサル金額物件ノ義務者ト認メ其負債ノ高ヲ加増シタル者ハ詐偽ノ倒産ノ罪犯トナシ六月ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ六円ヨリ廿円ニ至ル罰金ニ処ス

情ヲ知リテ其藏匿スル物件ヲ領收シ
又ハ詐偽ノ約定ヲ承諾シ又ハ仲人ト
ナリ其世話ヲナシ助ケテ倒産ヲ終成
セシメタル者ハ倒産者ノ共犯トナシ同
刑ニ処ス

第　条　何人ニ限ラス（分散ノ際）商業簿冊
又ハ勘定帳ヲ藏匿破棄シ又ハ家資分
散又ハ財産抛棄ヲ裁判所ヨリ言渡シタル
後甲ノ債主ヲ害スル為メ乙ノ債主ニ拂
フタル者ハ通常ノ倒産ノ罪トナシ二月
ヨリ三年ニ至ル重禁錮並~~三円ヨリ三十~~
~~円ニ至ル罰金~~處ス

第　條　自己又ハ他人ノ姓名身分ヲ偽ル
為メ姓名ヲ詐称シ又ハ身分ヲ詐称シ
又ハ無実ノ成功ヲ希望セシメ又ハ無
根ノ事故ヲ畏怖セシムル為メニ偽計

ヲ用ヒテ金額、物件又ハ譲與ノ証義務ノ証券、請取書、釋放書ヲ渡サシメタル者ハ詐偽取財ノ罪犯トナシ二月ヨリ四年ニ至ル重禁錮並ニ四円ヨリ四百円ニ至ル罰金ニ処ス但シ文書ヲ偽造シタル罪ノ重キハ重キニ依テ處断ス

第 條 幼者ノ怯心、未熟又ハ人ノ精神錯乱シタルヿニ乘シ其者等ヲシテ或ル動産物件又ハ其害トナルヘキ証書ヲ渡サシメタル者ハ前同刑ニ処ス

第 条 何人ニ限ラス商品又ハ動産物件ヲ目的トナシタル売買其他要償ノ契約ニ於テ偽詐ヲ以テ一方者（買主又ハ契約ヲ結フ者ヲ云フ）ニ對シ契約ノ目的トナリタル物質又其契約ニ示シタル分量ヲ偽リシ者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

又裁判所ハ本刑ノ外尚ホ其刑ノ言渡昏ヲ
裁判所ヨリ指示スル場所ニ貼付シ且其言
渡昏ヲ犯人ノ費用ニテ新聞紙ニ刊行ス可
キヲ命スル丁ヲ得賃造尺斗度量ヲ使用シ
タルトキハ之ヲ破毀シ若シ官署検査印、記号
ヲ贋造スル者ハ贋造ノ刑ニ処テ処断ス

第　条　故意ヲ以テ已レニ属セサル動産不
動産ヲ要償契約ヲ以テ譲與シ又ハ不動産
ヲ書入ト為シ又ハ動産ヲ典物ト為シ又ハ
所有者既ニ不動産ヲ書入ト為シタルコヲ
欺隠シテ賣リ又ハ他ニ書入ト為シタル者
ハ詐偽取財ヲ以テ論シ刑ニ処ス

第　條　損料借受、受寄、代理、質入借用ノ名義
ニテ不ハ雇直ノ有無ヲ論セス人ノ工事ヲ
為スヲ又ハ其他元物ヲ返還セス不ハ代價
ヲ以テ算計スヘキノ約定ニテ委托セラレ

金額物件並ニ手形ヲ所有者又ハ其関係ア
ル者ノ害トナルヘキ方法ニテ蔵匿脱漏シ
又ハ費消シタル者ハ背信ノ罪トナシ一月
ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十
円ニ至ル罰金ニ処ス

第　條　已レニ属スル物件ト雖モ裁判所ヨリ
差押ヘラレ且其管守ヲ託サレタルニ係有者自
ヲ其物件ノ脱漏蔵匿消費シタル者ハ前項ノ刑ニ処ス

第　条　附託代理ノ名義ニテ記名捺印ノ
白紙ヲ受取リ其白紙ニ偽テ譲渡ノ証義
務ノ証、請取ノ証釈放ノ証ヲ記シ其他記
名者捺印者ノ名誉ニ関スル事件又ハ
其財産利益ヲ害スヘキ事件ヲ記入シ
タル者ハ記名又捺印白紙擅用ノ罪ト
ナシ一月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ
四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ処ス

此文書ヲ使用シテ他人ヨリ金額物件ヲ
得タル者ハ詐偽取財ノ刑ニ拠テ処断
ス
若シ其記名又ハ捺印ノ白紙ヲ盗取シテ
其罪ヲ犯シタル時ハ文書ヲ贋造ノ罪ヲ以
テ処断ス
第　条　若シ婢僕手代其他雇一節雇
条ニ記載シタル者並ニ法律上又ハ裁判
所ヨリ委託シタル管守者ノ其罪ヲ犯シタル
時ハ背信ノ罪又ハ記名又ハ捺印ノ白紙
横領ノ罪ニ一等ヲ加フ但シ第　条ニ記
載シタルモノハ此例ニ非ラス
第　条　此節ニ記載シタル軽罪ノ中止及
ヒ仕損ハ其罪ヲ論ス

## 第七節　放火洪水破壞損害ノ害

失火ノ罪

第　条　故意ヲ以テ人ノ住居シタル建造物家屋屯営テント倉庫船舶ニ放火シ又ハ人民集會スヘキ建造物等ニ其集會中放火シタル者ハ自己ノ所有ト他人ノ所有ヲ分カタス死刑ニ処ス

旅客ノ乗リタル流車又ハ其列車ノ一部タル車ニ故意ヲ以テ放火シタル者モ

明治文庫

亦同刑ニ処ス

家屋又ハ其他前ニ記載シタル物件ニ直ニ放火スルニ非ラスト雖モ故ラニ火ノ傳ハルヘキ方法ニテ放火シ現ニ其物件ニ火ヲ傳ヘタルトキハ本条ニ拠テ處断ス

第条 人ノ住居セス又人民ノ集會セサル建造物ニ放火シ其建造物ノ所有他人ニ係ル者ハ左ノ区別ニ拠テ処断ス

一 一戸以上人ノ住居シタル場所ヨリ又ハ人ノ住居シテ碇泊ノ船舶ヨリ二百間以内ニアル物件ニ放火シタル時ハ軽徒刑

二 其放火シタル物件ノ二百間以外ニアルトキハ重懲役

第條 麻林砦伐スヘキ木刈放シ又ハ

刈收セサル穀物ヲ堆積シタル高艸、竹
木材ノ聚積場、倉庫ニアラサル木石炭鑛、
油菜油、燒酒、又ハ発烈スヘキ物件ニ放火シ
タル者此等ノ物件ノ所有他人ニ係ル
者ハ前条ニ記載シタル住所ヨリ距離
ヲ計算シ前同刑ニ処ス

第　条　家屋倉庫ニ非ラサル堆積シタル
食用物品其他第三条ニ記載シタル外ノ

司法省

商品ニ放火シ又ハ人ノ住居セサル船舶或ハ旅
客ノ乗リタル列車ノ一部ヲナサヽル汽車ニ
放火シ其物件ノ所有他人ニ係ル者ハ人
ノ住所ヨリ距離ノ遠近ヲ分カタス軽懲
役ニ処ス

第　条　人ヲ殺シ又ハ人ノ身体ニ疾病ヲ
為スノ目的ニテ放火シタル時ハ第一章
第一節第二節ニ記定シタル謀殺及ヒ

司法省

預メ謀リテ創傷殴擊ヲナシ癈篤疾ニ
致シタル刑ト放火ノ刑トヲ比較シ重
キハ重キニ依テ処断ス

第　条　第　条　条　条ニ記載セシ放
火ニ依リ故意ニアラスシテ人ヲ癈篤
疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ処シ依テ人
ヲ死ニ致シタル者ハ重懲役ノ長期ニ
処ス

然レ氏義務（職務ト訳スヘキ手消防人ヲサス）ニヨリ又親誼
又見物ノ為メ火事場ニ来リタル者ヲ死
ニ致シ又ハ癈篤疾ニ致シタルトモ其罪
ヲ論ス可カラス

第　條　自己ノ所有ニ属スト雖モ火難
合ニ附シタル物件ニ放火シタル者
ハ他人ノ所有物ト同シク論ス

第　條　人ノ住居セサル建造物、船舶

及ヒ第　条ニ記載シタル物件ニ放火シ
其所有ノ本人ニ係ル者ハ左ノ區別ニ依テ
處断ス
一　其物件人ノ住居シタル場所又ハ碇泊
ノ船舶ヨリ二百間内ニアル片ハ一月ヨ
リ六月ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ百
円ニ至ル罰金ニ處ス
二　其物件ノ人ノ住所船舶ヨリ二百間以
外千間以内ニアル者ハ十一日ヨリ三月
ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十五円ニ
至ル罰金ニ処ス
第九條　前条ニ記載シタル場合ニ於テ
已レニ属スル物件ニ放火シ故意ニアラ
スシテ人ノ身体財産ニ損害ヲ為シタ
ル時ハ人ノ住所ヨリ距離ノ遠近ヲ問
ハス左ノ區別ニ拠テ処断ス

財産ニ損害ヲ為シタルトキハ二月ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ二十円ヨリ二百円ニ至ル罰金

二 其他疾病ヲ為シタルトキハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ三十円ヨリ三百圓ニ至ル罰金

人ヲ癈篤疾ニ致シタルトキハ一年ヨリ四年ニ至ル重禁錮並四十円ヨリ四百円ニ至ル罰金

四 人ヲ死ニ致シタルトキハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ五十円ヨリ五百円ニ至ル罰金

第 條 他人ヲ殺傷スルノ意又ハ他人ノ財産ヲ害スルノ意ニテ自己ノ物件ニ放火シタル者ハ他人ノ物件ニ放火シタル第 条第 条第 条ノ

国立国会図書館

例ニ依テ其罪ヲ科ス

第　條　所有者ト通謀シテ第　条第

条第　条ノ物件ニ放火シタル者ハ所有者ト同シク論ス

然レトモ放火ニ依リ故意ニ出テ人ノ身体及ヒ財産ニ損害ヲ為シタルヲ指令ヲ受ケタル者ハ其情ヲ知テ放火シタルニアラサレハ損害ヲ為シタル刑ヲ科ス

可カラス

第　条　過失又ハ規則ヲ遵守セサルニヨリ故意ニアラスシテ火ヲ失シ人ノ財産ニ損害ヲ為シタル者ハ十一日ヨリ二月ニ至ル軽禁錮又ハ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処シ又ハ火ヲ失シタル時ノ模様ニヨリ禁錮罰金ヲ併科ス

ノ一ニ依テ罰ス

依テ人ヲ死ニ致シ又ハ人ノ身体ニ疾

傷ヲナシタルトキハ第一章第四節ニ記載シタル（過失人ヲ死ニ致シ或ハ疾傷ヲナシタル）刑ニ拠テ処断ス

第　条　人ノ居住シ又ハ居住セサル建造物船舶ヲ破壊スルノ目的ヲ以テ地雷火、破裂スヘキ物品又ハ煙気并毒気錐ヲ破裂セシメタル者ハ放火ニ同シク前数条ノ例ニ依テ其罪ヲ科ス

過失ニ出タル者ハ前条ノ規則ニ依テ其罪ヲ科ス

第節

洪水ノ罪

第條　人家調密ノ場所ノ全部又ハ一部ヲ涵溢スルノ目的ニテ河湖溝渠池沼ノ水ヲ豫防スル為メニ築造シタル堤ヲ破壞シタル者ハ死刑ニ處ス

第條　土地ノ高底又ハ水力ノ足ラサル

明治法學

ニヨリ人家ノ調密シタル場所ニ更ラニ害
ヲ為サヽル時ハ軽徒刑ニ處ス

第　條　人家ノ調密セサル場所ニアル
一戸又ハ數戸ヲ溢スルノ意ニテ堤ヲ破
壊シタル片ハ重徒刑ニ處ス但シ前条
ニ記載シタル場合ニ於テハ重懲役
ニ處ス

第　條　然レ氏第　条及第　条ノ場合

ニ於テ堤ヲ破壊ニ依テ人ヲ死ニ致ス
タル者ハ死刑ニ処ス

第　条　他人ニ属スル田畑又ハ物置ニアル
商品又ハ人ノ居住セサル家屋ヲ荒廃
スル意ニテ水道又ハ河湖ノ堤ヲ破壊
シ又ハ水道ノ樋ヲ毀チタル者ハ軽懲
役ニ依テ人ヲ癈篤疾ニ致シタル片ハ重
懲役人ヲ死ニ致シタル片ハ重懲役ノ

長期ニ処ス

第　条前数条ニ記載シタル場合ニ非ラス他人ノ便益ヲ減シ又ハ自己ノ便益ヲ増シ或ハ自己ノ不便ヲ減スルノ意ニテ堤ヲ破壊シ或ハ樋ヲ毀チ又水ヲ引キ又ハ水流ヲ妨ケタル者ハ一月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

未邑政府ハ法例ニ基テ定ムルヲ要ス

依テ他人ノ財産ヲ害シタル者ハ二月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ處ス

依テ廃篤疾ニ至ラサル疵傷ヲ為シタル時ハ三月ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ六円ヨリ六十円ニ至ル罰金ニ処ス

依テ廃篤疾ニ致シタル者ハ一年ヨリ四年ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ

百円ニ至ル罰金ニ處ス

依テ死ニ致シタル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ二十円ヨリ二百円ニ至ル罰金ニ処ス

第　條　過失ニ依リ水ヲ決シタル者ハ前條　節第　条ノ例ニ依テ処断ス

第　節　船舶ヲ沉壊（アナヲ）シ沉没セシムル罪

第　條　故ラニ人ノ乘ラサル他人ニ属スル船舶ヲ沉壊シ又ハ沉没シタル者ハ二月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ四円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ處ス

若シ其船舶他人ニ属スル高品ヲ積メル時ハ前項ノ禁錮罰金ヲ二倍ス

第條　自己ニ屬スル船舶ト雖モ保險ニ附シタル者ヲ炮壞沈沒セシメタル者ハ他人ノ船舶ト同シク論ス

第條　人ノ乘リタルヲ知ルト雖モ人ヲ殺傷スルノ意ナク船舶ヲ炮壞シ又ハ沈沒セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

依テ廢罵疾ニ致シタル者ハ重懲役ノ長期死ニ致シタル件ハ輕徒刑ニ處ス

第條　人ヲ殺傷スルノ意ニテ船舶ヲ炮壞又沈沒セシメタル者ハ謀殺及ヒ豫メ謀テ創傷毆擊シタル者ト同シク論ス

第條　前數条ニ記載シタル重罪輕罪ヲ船舶ノ航海者又ハ其乘組ノ水夫其他船舶ノ雇人ノ犯シタル時ハ各本条ニ

明治法學

照シ長期ニ處ス

各本条ニ於テ已ニ其罪長期ニ該ルトキハ

一等重キ刑ニ處シ軽徒刑ニ該ルトキハ

重徒刑ニ處ス

第　條　過失ニ依リ前數条ニ記載スル

罪ヲ犯シタル者ハ前第一節第　条

ノ例ニ照シテ處断ス

前節ニ通用スル規則

第　条　前節ニ記載シタル場合ニ於

テ職務又ハ親族見物ノ為メ来集シタル

者ヲ避逃ニ死傷シタル時ハ人ヲ死傷

ニ致スノ罪ヲ以テ論スルノ限ニアラ

ス

羽柴雄輔

## 第節　破壞、破毀、損害ノ罪

第條　水火ノ外他ノ方法ヲ以テ故ラニ他人ニ屬スル家屋ヲ破壞シタル者ハ入ノ住居スルト否トヲ別タス一月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

前項ノ所為ヲ以テ故意ニアラス人ヲ

死傷シタル時ハ左ノ例ニ照シ其罪ヲ
科ス

一 癈篤疾ニ至ラサル傷痍ヲ為シタ
ル者ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁
錮並ニ二十円ヨリ五十円ニ至ル罰
金ニ處ス

二 癈篤疾ニ致シタル者ハ軽懲役ニ
處ス

三 死ニ致シタル者ハ重懲役ニ処ス

故意ニ出テ殺傷シタル者ハ謀殺及
ビ豫メ謀テ創傷殴擊シタル者ト同
シク論ス

第 条 故ラニ家屋ニ属スル場所又ハ
庭園ノ装飾籬垣又ハ田畑ノ囲ヲ破壞
シタル者ハ十一日ヨリ三月ニ至ル重
禁錮並ニ二円ヨリ十円ニ至ル罰金ニ

明法寮

処ス

第　条　他人ニ属スル穀類其他必用ノ産物ヲ故ラニ破壊シ又ハ荒残シタル者ハ已ニ刈収スルト否トヲ問ハス十一日ヨリ十年ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

第　条　害スルノ意ニ出テ他人ニ属スル木竹ヲ伐シ或ハ之ヲ枝取スル者ハ第　章ノ第　條ニ記載シタル盗罪ヲ罰スル刑ニ二等ヲ減ス

第　條　土地ノ経界ヲ限定スルノ表ト為リタル物件ノ全部又ハ一部ヲ故ラニ破壊シ又ハ移動シタル者ハ一月ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

已ヲ利スル為メ其土地ニ溝リタル者

其經界ヲ破壊又ハ移動シタルトキハ本刑ヲ二倍ス

第　條　他人ニ傷スル農具又ハ牛馬其他大小ノ獣類ヲ飼フ為メノ牧場ノ柵欄番人ノ小舎又ハ耕作ノ用ニ供スル小舎ヲ故ラニ破壊シタル者ハ一ヶ月ヨリ六ヶ月ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ七十円ニ至ル罰金ニ處ス

第　條　利欲ノ為メ又ハ悪意ニ出テ故ラニ他人ニ属スル所有権、義務、請取、釈放其他ノ権利ヲ記シタル証書ヲ滅盡セシメ又ハ其効ヲ失ハシメタル者ハ六月ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

前項ニ記載スル証書ノ副本又ハ他人ニ属スル書牘又ハ記録計算書ノ必要

ノ文辰ヲ滅盡セシメ又ハ其効ヲ失ハシ
メタルトキハ十一日ヨリ一年ニ至ル重禁
錮並ニ二圓ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ
処ス

第　條　他人ニ属スル食用物品商品
又ハ動産ヲ故ラニ破壊シ又ハ用ニ充
タサラシメタル者ハ十一日ヨリ一年
ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ二十円ニ
至ル罰金ニ処ス

第　条　自己又ハ他人ノ為メ危害ヲ防
クヘキ場合ニアラスシテ故ラニ他人
ニ属スル牛馬羊類ヲ殺シタルモノハ
左ノ區別ニ從ヒ処断ス

一若シ犯人ノ意ニアラス獣類ノ家屋
ニ入リタルヲ殺シタルトキハ十一日ヨリ
一月ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ五円

ニ至ル罰金ニ処ス

二 犯人獣類ヲ引キ入レ又ハ所有者ノ内ニ行キ殺シタルキハ一ヶ月ヨリ四月ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

三 其他ノ場所ニ於テ殺シタルキハ十五日ヨリ二月ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ十円ニ至ル罰金ニ処ス

第 条 已ムヲ得サルニアラス故ラニ他人ニ属スル家蓄ノ鳥獣類ヲ殺シタル者ハ（其有益物ナルト玩弄物ナルトヲ別タス）前条ニ記載シタル区別ニ照シ罰金ヲ科ス

所ナ得ザル事ニ限ル

第 条 若シ召使手代職人年期ノ弟子此ノ一節ニ記載シタル罪ヲ犯シタルキハ本刑ニ一等ヲ加フ

IF
10